

年 報

2023.4~2024.3



医療法人 清風会 茨木病院

medical corporation seifukai ibaraki hospital

2023 年度「病院年報」発刊にあたって

医療法人 清風会
広報委員会

医療法人清風会茨木病院の 2023 年度「年報」を発刊することができました。
この年報の内容は、当法人が実践してきた医療・看護・福祉全般にわたる 1 年を総括する記録になります。当法人の概要を知って頂きたい思いで作成しました。どうぞご覧ください。また年報の発刊ができましたのも、ひとえに関係各位のご支援のおかげと感謝致しております。

ここ数年の間、絶えず世間を賑わしているコロナウイルスですが 2023 年 5 月 8 日より 5 類感染症に移行となり、様々な規制・制限が緩和され少しずつですが、流行以前の生活が戻ってまいりました。当院でもクラスター感染を経験していることを踏まえ、感染予防への意識を高めて業務に臨んでおります。感染状況によっては入院生活の中で患者様に一部制限を求める事になり、ご不便ご負担をかけることとなりますが、少しでも安全・安心な医療や環境を提供できるように尽力しております。人が集い笑い合うことが当たり前の日常が戻ることを祈りつつ、引き続き気を緩めることなく、より良いサービスの提供に努めていきたいと思っております。

近年の精神保健福祉の現状としては様々な課題に直面しています。スマートフォンやソーシャルメディアの普及に伴い、若年層のストレス、不安、うつ病などの精神的健康問題が増加しています。その為、若者向けのメンタルヘルスサービスや支援が重要視されています。また、高齢者や障害を持つ人々などが社会的に孤立しやすい状況にあります。孤独感はメンタルヘルス問題の一因となる為、社会的繋がり強化や支援が必要です。その他にも経済的な不確実性、仕事のプレッシャー、家庭内のストレスなどがストレス関連障害の増加に繋がっており、ストレス管理や心理的サポートの需要が高まっています。こうした課題に対処する為に、政府や非営利団体、精神保健プロフェッショナルなど様々な組織が取り組んでいます。地域に根差した当法人としましても医療部門と在宅支援部門ともに地域の皆様と連携しながらこの課題に対応していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

一 目 次

発刊のことば	P1
広報委員会	
概要	P6
病院統計資料	P12
診療部	P16
医局／薬局／検査室	
診療支援部	P29
地域医療連携室／医療福祉相談室 リハビリテーション室（デイケアセンター・OTセンター） 栄養科	
医療安全管理室	P37
看護部	P39
管理部	P48
附帯事業部	P50
地域活動支援センター I 型 菜の花 菜の花障害者相談支援センター 就労支援センター onwArk 訪問看護ステーション そよかぜ	
法人が行う地域啓発活動	P57
委員会活動	P59

茨木病院の理念

私たちは、患者さんを中心とした、開かれた信頼される病院として、地域と社会に貢献することを目指しています。

基本方針

1. 患者さんの人権と医の倫理を尊重します
2. 説明と同意のもとに信頼される医療を行います
3. 地域との連携を深め、医療・福祉に貢献します
4. 患者さんが安心して生活できるように支援します

患者さんの権利

【適切で公平な医療を受ける権利】

患者さんは、一人の人間として尊重され、適切な医療を公平に受ける権利があります

【十分な説明と情報を得る権利】

患者さんは、診療に関しての十分な説明と情報提供を受ける権利があります

【自己決定する権利】

患者さんは、十分な説明と情報提供を受けた上で、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります

【プライバシー保護の権利】

患者さんは、人権やプライバシーを守られる権利があります

患者さんの責務

【医療へ専念と医療行為への協力】

患者さんは、医療従事者に対して、ご自身の健康に関する情報をできるだけ正確に伝えていただく責務があります

【診療・入院規則の遵守】

患者さんは、病院内や社会のルールを守り、すべての患者さんの治療や療養に支障を与えないように配慮していただく責務があります

【診療費用の支払い】

患者さんは、医療にかかった費用を支払う責務があります

茨木病院 概要

名称	医療法人清風会 茨木病院		
所在地	〒567-0801 大阪府茨木市総持寺 1－4－1 電話 072-622-2721（代表） FAX 072-621-7092 URL http://www.seifukai.org		
開設	昭和27年11月17日		
開設者	理事長 高橋 大輔		
管理者	院 長 高橋 大輔		
許可病床数	340床（6病棟） 精神病棟2病棟（114床）、精神療養病棟2病棟（120床） 精神科急性期治療病棟（1病棟51床）、認知症治療病棟（1病棟55床）		
診療科目	精神科 心療内科		
看護体系	精神病棟入院基本料(15対1入院基本料、看護補助加算2、看護配置加算)		
承認事項	大阪府指定病院 大阪府・大阪市精神科救急システム参画病院		
施設基準	精神科急性期治療病棟（51床） 精神療養病棟 重症者加算1 2病棟（120床） 認知症治療病棟（55床） 療養環境加算 精神科身体合併症管理加算 精神科救急搬送患者地域受入加算 感染防止対策加算2 精神科デイケア（大規模）（50名） 精神科ショートケア（大規模）（50名） 精神科デイナイトケア 精神科ナイトケア 精神科作業療法施設 薬剤管理指導料 医療保護入院等診療料 検体検査管理加算（Ⅰ）		
敷地面積	6654.18m ²		
建物延べ面積	14643.36m ²		
職員数	精神科医	9名（内 精神保健指定医9名）	
	非常勤内科医	4名	薬剤師 4名
	作業療法士	9名	精神保健福祉士 10名
	看護師	110名	准看護師 19名
	看護補助者	19名	事務員 17名
	管理栄養士	2名	臨床検査技師 2名
	臨床心理士（非常勤）	1名	放射線技師（非常勤） 8名

患者数	1 日平均在院患者数 307.5名					
	1 日平均外来患者数 87.9名					
	年間在院患者延べ数 112,544名					
	年間入院者数 363名					
	年間退院者数 359名					
病床利用率	90.4%					
平均在院日数	311.8日					
地域保健活動	大阪大学医学部臨床実習病院 大阪府立精神医療センター 医療観察法倫理会議委員 大病協看護専門学校実習病院 京都大学医学部保健学科実習病院 四条畷学園大学リハビリテーション学部実習病院 大阪府立大学総合リハビリテーション学部実習病院 神戸女学院大学人間科学部・文学部総合文化学科実習病院 大阪人間科学大学人間福祉学部実習病院 茨木市自立支援協議会委員 茨木市自立支援協議会事務局員 摂津市障害支援区分認定審査会委員 大阪市障害支援区分認定審査会委員 社会福祉法人たゆたう理事 大阪府障がい者相談支援アドバイザー 総持寺いのち・愛・ゆめセンター支援方策検討会委員 茨木市人権三島地域協議会副会長 三島まちづくり協議会理事 堺市精神医療審査会委員 大阪府三島精神医療懇話会委員					
関連施設	地域活動支援センター I 型 菜の花 菜の花障害者相談支援センター 就労支援センター onwArk（オンワーク） 訪問看護ステーション そよかぜ					
関連施設職員 （非常勤含む）	精神保健福祉士	10名	作業療法士	5名	看護師	9名
	生活支援員	2名	工賃達成指導員	2名	職業指導員	3名
	事務員	1名				

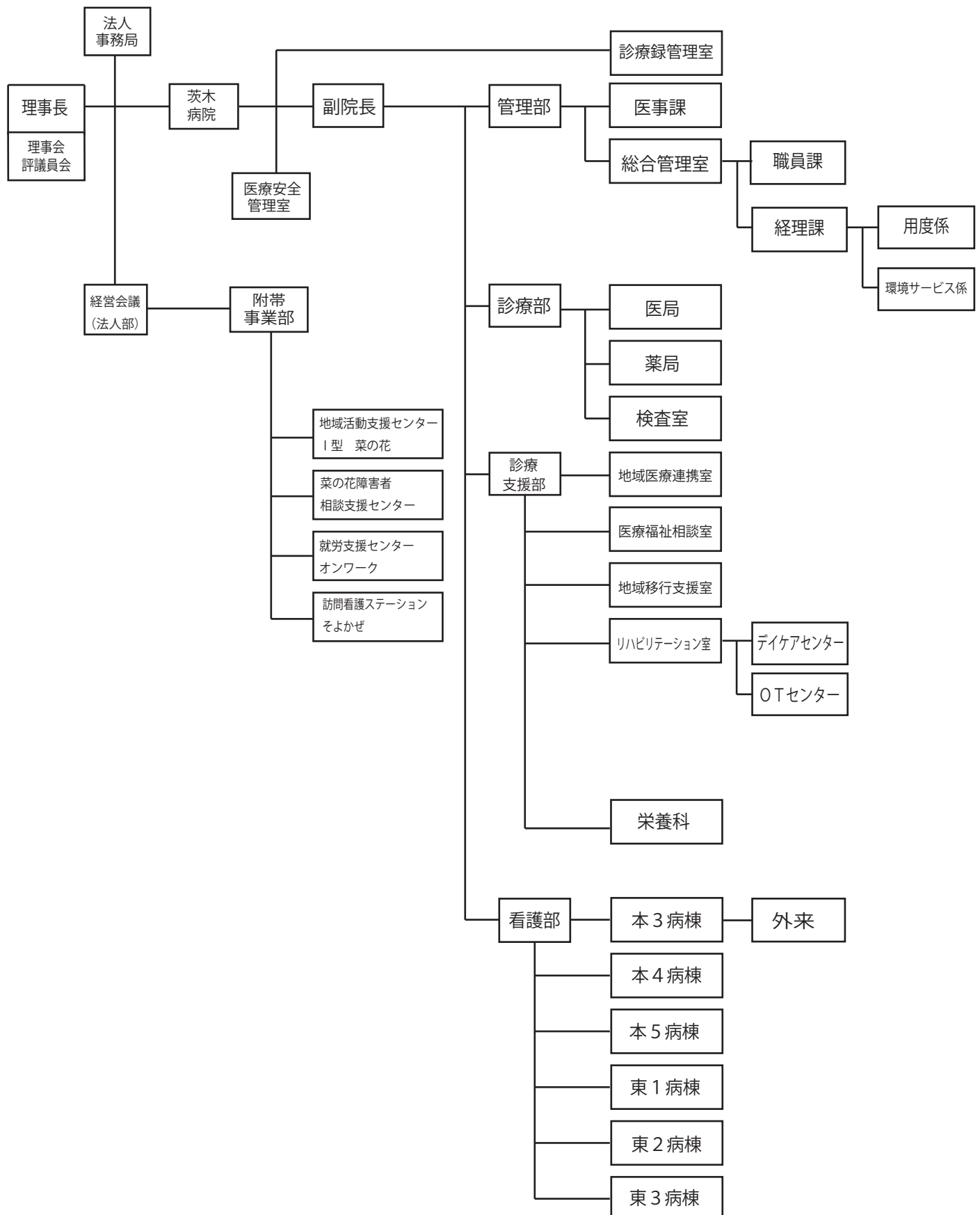
医療法人清風会の沿革

1922. 2. 23 私立堺脳病院落成式挙行
創立者・初代院主・院長 高橋 清太郎
1948. 4 . 1 高橋 幸雄 2代院主・院長に就任
1950. 8. 24 財団法人浅香山病院設立（香ヶ丘診療所を寄附）
1950. 10. 23 医療法人清風会設立
代表設立者（理事長）高橋 幸雄、理事 高橋 清彦、
高橋 重幸、監事 高橋 清太郎
1950. 12. 1 私立堺脳病院を廃院、医療法人清風会堺脳病院を開設
院長 高橋 幸雄
1952. 6. 28 創立者高橋 清太郎死去

-
1952. 11. 1 医療法人清風会堺脳病院分院茨木病院設立 定床64床
院長 高橋 清彦
1952. 11. 17 開院式（この日を創立記念日とする）
1953. 3. 16 定床138床
1953. 4. 30 堺脳病院の分院制を改め、医療法人清風会の直営とする。
1953. 10. 21 定床168床
1955. 3. 1 高橋 清彦 医療法人清風会理事長就任
1961. 4. 1 堺脳病院を閉院、医療法人清風会は、財団法人浅香山病院（院長高橋清彦）に
土地、建物を貸与する。これにより、浅香山病院は、精神科を中心とする総合
病院となり、医療法人清風会の経営は、茨木病院のみとなる。
1966. 7. 21 定床290床
1977. 11. 12 新本館竣工。落成式挙行。定床305床
1978. 7. 1 高橋 幸彦 茨木病院第5代院長就任
1981. 4. 7 東館の開放化。患者さんが利用できるサロンを開設する。
1987. 12. 15 新東館竣工。計350床となる。
1993. 11. 15 管理棟内旧事務センターを増改築、デイケアセンターとする。
1994. 2. 1 精神科デイケア（大）承認（定員50名）
1995. 7. 1 高橋 清彦 医療法人清風会会長就任
高橋 幸彦 医療法人清風会第3代理事長就任
1996. 1. 1 新看護3:1 看護補助15:1届出
1996. 11. 15 リハビリ棟竣工
2001. 4. 10 東館増築工事竣工
2001. 6. 1 精神療養病棟 1 届出（東2、3計120床）
精神病棟入院基本料（3）
2002. 9. 4 本館改築工事開始（第Ⅰ期）
2004. 3. 1 新本館第1期工事竣工使用開始
精神病棟入院基本料（3）計330床（一時的に減床）
2004. 4. 1 精神障害者地域生活支援センター菜の花竣工開所
2004. 6. 30 精神科デイケア（大）定員70名届出

2005. 4. 18 新本館第2期工事一部完了 外来等移転使用開始
2005. 7. 12 病棟等新規及び改築分使用許可
2005. 7. 12 精神科入院基本料（3）届出 総病床350床に戻す
2006. 6. 1 精神科急性期治療病棟 1（57床）精神科入院基本料（15対1）届出（173床）
2006. 10. 1 障害者自立支援法による障害福祉サービス事業として秋桜は共同生活援助及び
共同生活介護に移行。地域生活支援センターは地域活動支援センターⅠ型とし
て障害者相談支援センターを併設し茨木市委託事業となる。
2007. 5. 1 障害者自立支援法による就労移行支援事業として就労支援センター onwArk（オ
ンワーク）開設
2007. 9. 1 基準給食外部委託開始
2009. 6. 22 日本医療機能評価機構より病院機能評価（Ver5）を認定される。
2010. 4. 1 高橋 大輔 医療法人清風会茨木病院 第6代院長就任
2013. 4. 30 共同生活介護・共同生活援助「秋桜」廃止
2013. 11. 1 訪問看護ステーションそよかぜ設立
2014. 6. 6 日本医療機能評価機構より病院機能評価（機能種別3rdG:Ver1）を認定される。
2014. 10. 1 精神科急性期治療病棟内に認知症治療ユニット開設
2018. 4. 1 就労支援センターオンワーク多機能化。就労継続支援B型事業開設
2018. 10. 1 就労支援センターオンワーク定着支援事業開設
2018. 12. 18 定床340床
2019. 7. 12 日本医療機能評価機構より病院機能評価（機能種別3rdG:Ver2）を認定される。
2020. 5. 25 高橋 大輔 医療法人清風会 第4代理事長就任
高橋 幸彦 医療法人清風会 茨木病院 名誉院長就任
2020. 10. 1 就労支援センターオンワークジョブコーチ事業開設
2022. 3. 1 就労支援センターオンワーク自立（生活）訓練事業開設
2022. 11. 1 認知症治療病棟届出1（55床）
精神病棟入院基本料15対1病床数変更（114床）
2023. 10. 1 社会復帰支援センター架け橋竣工

医療法人 清風会 組織図



2023年度振り返り 2024年度事業計画について

医療法人清風会 茨木病院

法人事務局長
辻 博文

2023年度の事業計画では？

- 2023年度数値目標
 - 上半期目標：入院 9月までに平均310床到達を目指す。
平均300床以下にならないように、経過や動向を注視していく。
 - 外来 外来延べ数1900人を目標

2023年度の事業計画では？

- 2023年度数値目標
 - 下半期目標：入院 月間平均310床を維持し年間平均315床を目指す。
 - 外来 外来者延べ数1950人到達を目指す。
- ↓
- 目標設定を上半期、下半期に分け、目標数に達しない場合は、早めに対策を検討をする。

その結果どうだったか？

- (病床平均利用者数)
 - 2020年度平均 315.9床
(損益分岐点307床～310床)
 - 2021年度平均 291.8床
 - 2022年度平均 303.2床
(損益分岐点312床～315床)
- **2023年度平均 307.4床(3/7現在)**
(損益分岐点年度当初310床→年度末315床)

その結果どうだったか？

2023年度 1～3月 実績												2023年度 4～6月 実績											
項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
① 入院患者数	2,850	2,950	3,050	3,150	3,250	3,350	3,450	3,550	3,650	3,750	3,850	① 入院患者数	3,950	4,050	4,150	4,250	4,350	4,450	4,550	4,650	4,750	4,850	4,950
② 外来患者数	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400	2,500	2,600	2,700	2,800	② 外来患者数	2,900	3,000	3,100	3,200	3,300	3,400	3,500	3,600	3,700	3,800	3,900
③ 手術患者数	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	③ 手術患者数	2,300	2,400	2,500	2,600	2,700	2,800	2,900	3,000	3,100	3,200	3,300
④ 入院日数	10,000	10,500	11,000	11,500	12,000	12,500	13,000	13,500	14,000	14,500	15,000	④ 入院日数	15,500	16,000	16,500	17,000	17,500	18,000	18,500	19,000	19,500	20,000	20,500
⑤ 外来延べ数	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400	2,500	⑤ 外来延べ数	2,600	2,700	2,800	2,900	3,000	3,100	3,200	3,300	3,400	3,500	3,600
⑥ 手術延べ数	800	850	900	950	1,000	1,050	1,100	1,150	1,200	1,250	1,300	⑥ 手術延べ数	1,350	1,400	1,450	1,500	1,550	1,600	1,650	1,700	1,750	1,800	1,850
⑦ 入院費	120,000	125,000	130,000	135,000	140,000	145,000	150,000	155,000	160,000	165,000	170,000	⑦ 入院費	175,000	180,000	185,000	190,000	195,000	200,000	205,000	210,000	215,000	220,000	225,000
⑧ 外来費	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000	⑧ 外来費	135,000	140,000	145,000	150,000	155,000	160,000	165,000	170,000	175,000	180,000	185,000
⑨ 手術費	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	⑨ 手術費	115,000	120,000	125,000	130,000	135,000	140,000	145,000	150,000	155,000	160,000	165,000
⑩ 入院費	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000	135,000	140,000	145,000	150,000	⑩ 入院費	155,000	160,000	165,000	170,000	175,000	180,000	185,000	190,000	195,000	200,000	205,000
⑪ 外来費	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	⑪ 外来費	115,000	120,000	125,000	130,000	135,000	140,000	145,000	150,000	155,000	160,000	165,000
⑫ 手術費	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	⑫ 手術費	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000	135,000	140,000	145,000
⑬ 入院費	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000	⑬ 入院費	135,000	140,000	145,000	150,000	155,000	160,000	165,000	170,000	175,000	180,000	185,000
⑭ 外来費	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	⑭ 外来費	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000	135,000	140,000	145,000
⑮ 手術費	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	⑮ 手術費	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000
⑯ 入院費	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	⑯ 入院費	115,000	120,000	125,000	130,000	135,000	140,000	145,000	150,000	155,000	160,000	165,000
⑰ 外来費	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	⑰ 外来費	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000
⑱ 手術費	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	⑱ 手術費	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000
⑲ 入院費	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	⑲ 入院費	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000	135,000	140,000	145,000
⑳ 外来費	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	㉑ 手術費	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000
㉒ 入院費	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	㉒ 入院費	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000	135,000
㉓ 外来費	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	㉓ 外来費	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000
㉔ 手術費	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	㉔ 手術費	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000
㉕ 入院費	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	㉕ 入院費	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000	110,000	115,000	120,000	125,000
㉖ 外来費	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	㉖ 外来費	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	105,000
㉗ 手術費	2,000	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	㉗ 手術費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㉘ 入院費	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	60,000	㉘ 入院費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㉙ 外来費	2,000	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	㉙ 外来費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㉚ 手術費	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000	11,000	㉚ 手術費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㉛ 入院費	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	55,000	㉛ 入院費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㉜ 外来費	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000	11,000	㉜ 外来費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㉝ 手術費	500	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	3,500	4,000	4,500	5,000	5,500	㉝ 手術費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㉞ 入院費	2,000	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	45,000	50,000	㉞ 入院費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㉟ 外来費	500	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	3,500	4,000	4,500	5,000	5,500	㉟ 外来費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊱ 手術費	200	500	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	3,500	4,000	4,500	5,000	㊱ 手術費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊲ 入院費	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000	11,000	㊲ 入院費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊳ 外来費	200	500	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	3,500	4,000	4,500	5,000	㊳ 外来費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊴ 手術費	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1,000	1,100	㊴ 手術費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊵ 入院費	500	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	3,500	4,000	4,500	5,000	5,500	㊵ 入院費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊶ 外来費	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1,000	1,100	㊶ 外来費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊷ 手術費	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	㊷ 手術費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊸ 入院費	200	500	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	3,500	4,000	4,500	5,000	㊸ 入院費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊹ 外来費	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	㊹ 外来費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊺ 手術費	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	㊺ 手術費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊻ 入院費	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1,000	1,100	㊻ 入院費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊼ 外来費	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	㊼ 外来費	45,000	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000
㊽ 手術費	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	㊽ 手術費	45,000	50,000									

2023年度報統計資料

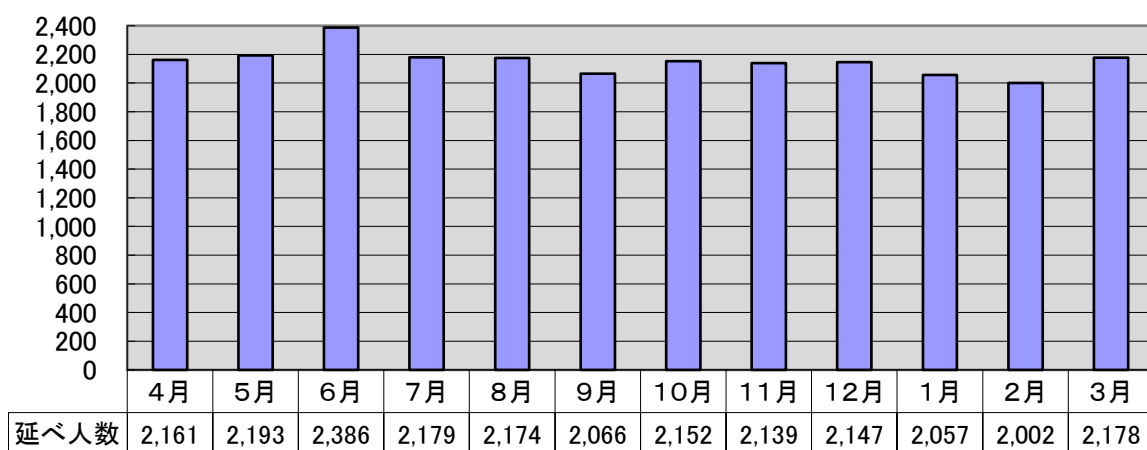
外来医療

1. 月別外来診察患者延べ人数
2. 新規外来患者数
3. 年間外来受診 年代別・男女別患者数

入院医療

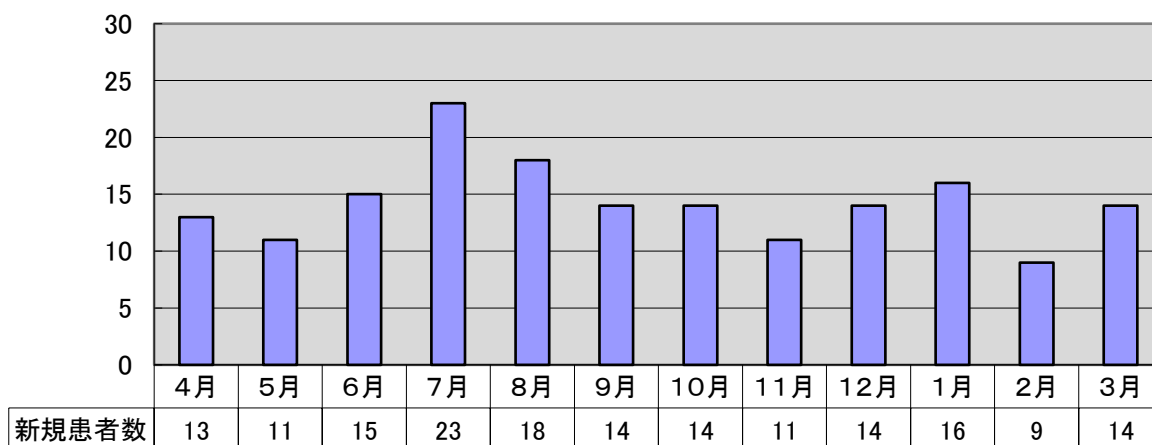
1. 入院患者延べ数
2. 入院患者在院期間割合（2024年3月31日現在）
3. 月別入院患者平均在院日数
4. 退院患者在院数
5. 月別入院・退院患者数
6. 年代別・男女入院患者数（年間）

1. 月別外来診察患者延べ人数



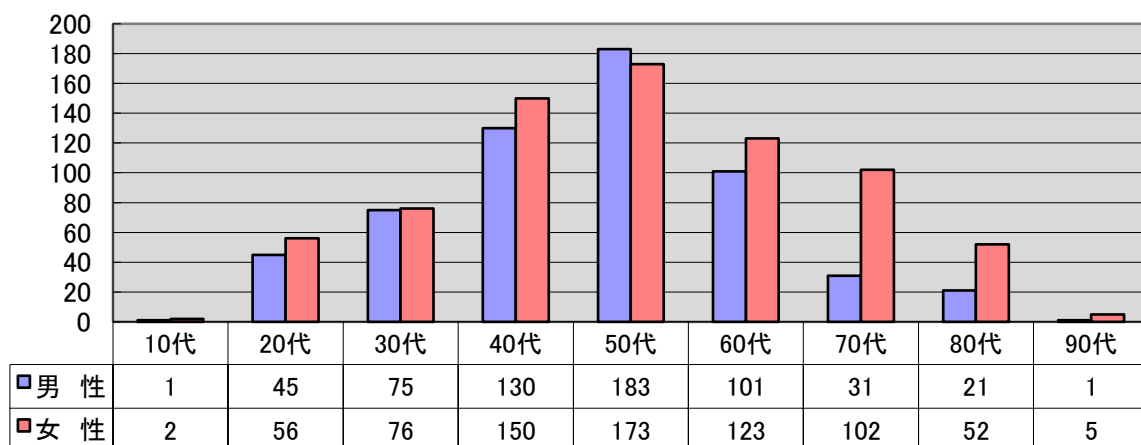
延べ人数合計25,834人(1日平均87人)

2. 新規外来患者数



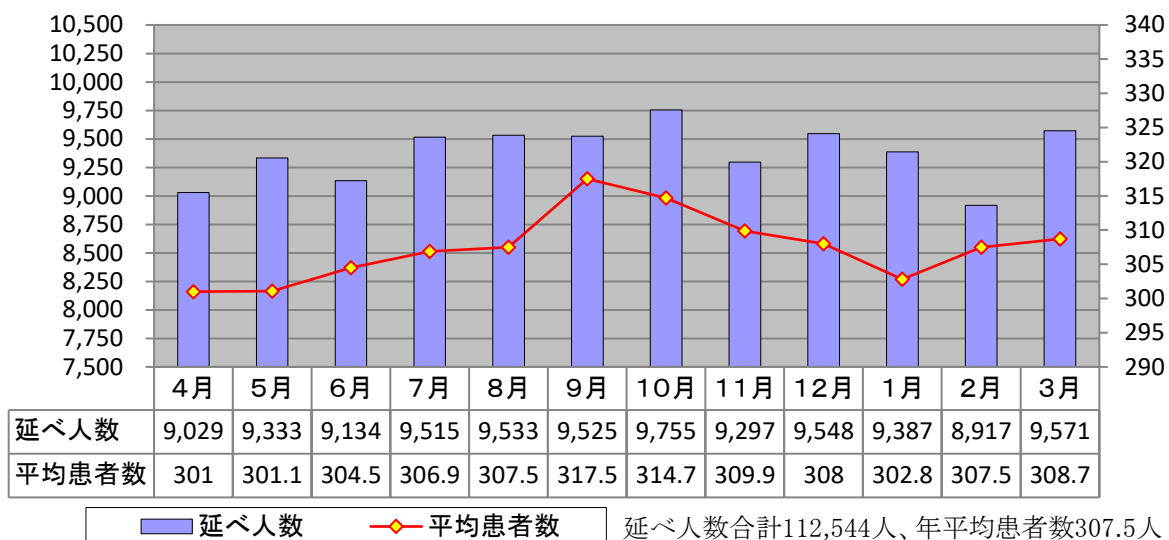
新規患者数合計 172人

3. 年間外来受診 年代別・男女別患者数

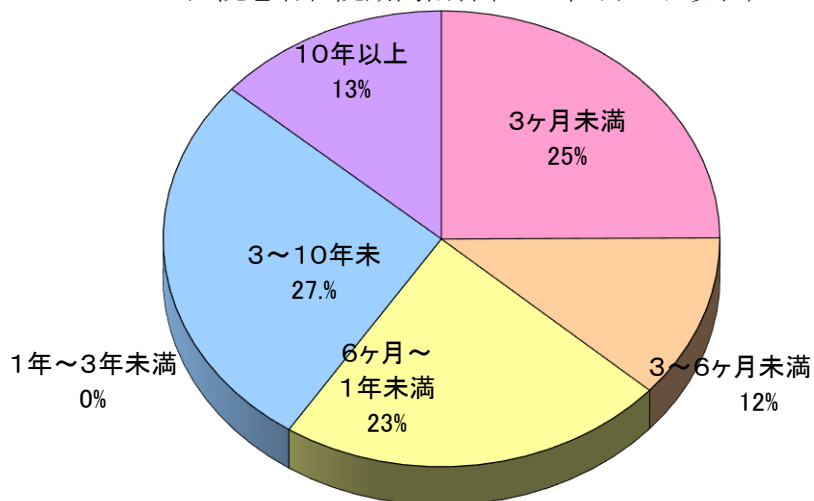


男性合計588人、女性合計739人、総合計1,327人

1. 入院患者延べ数

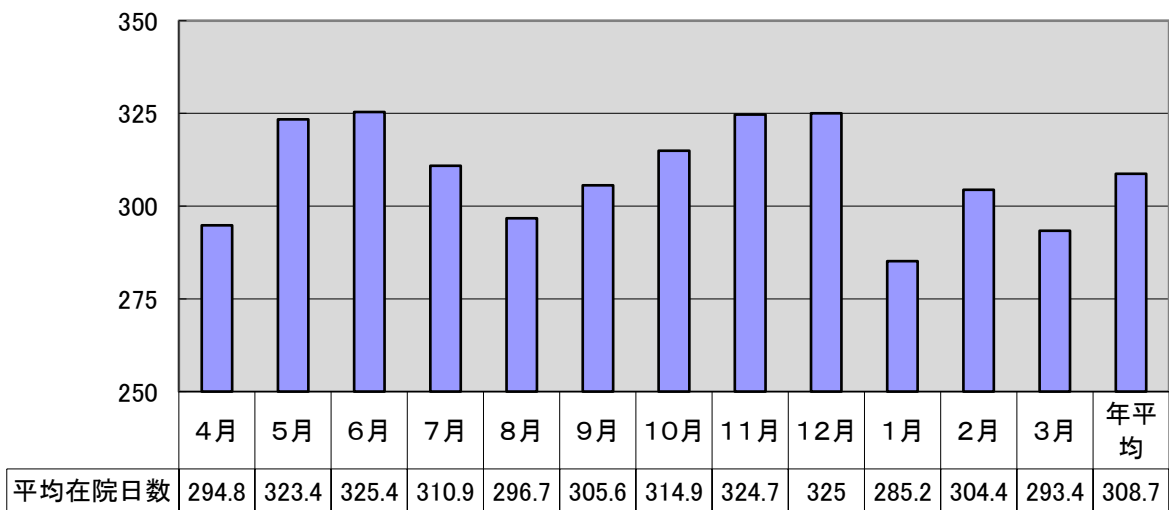


2. 入院患者在院期間割合 (2024年3月31日現在)

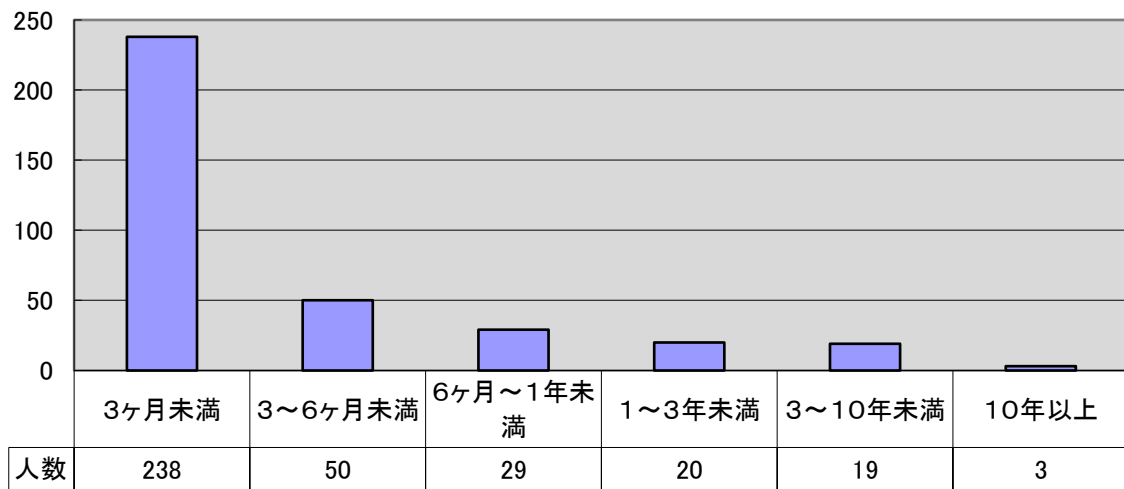


3ヶ月以内	77
3～6ヵ月以内	36
6ヵ月～1年	70
1年～3年	0
3年～10年	84
10年以上	42
合 計	309

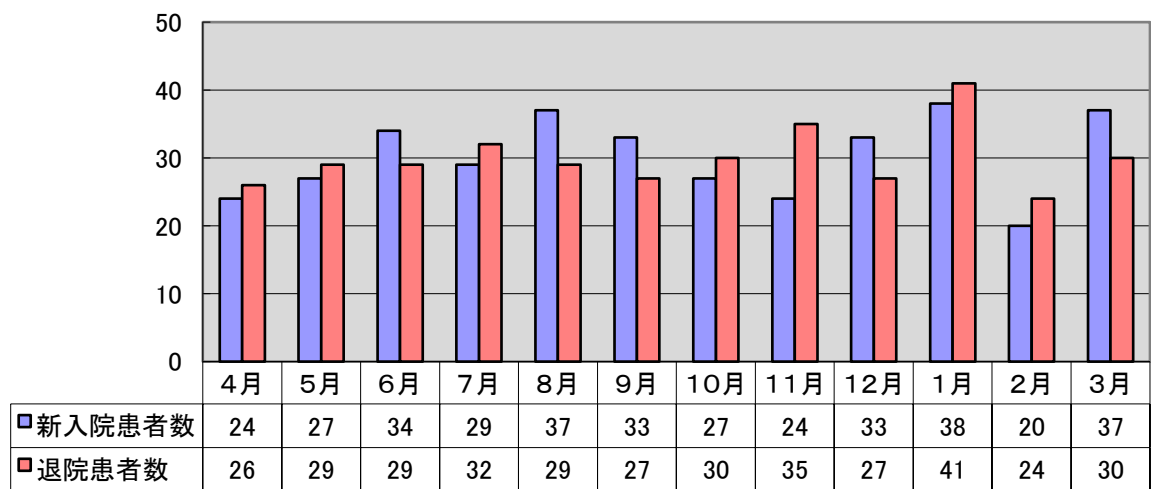
3. 月別入院患者平均在院日数



4. 退院患者在院日数

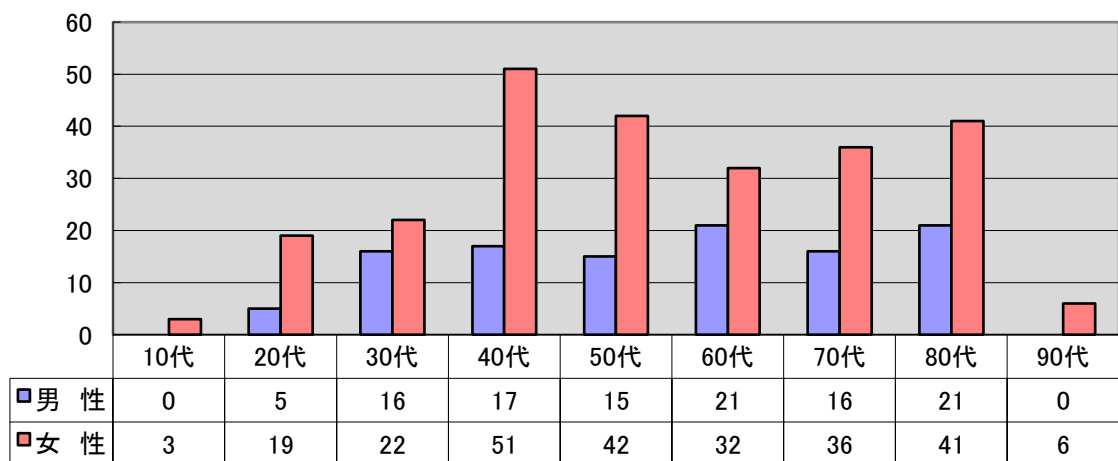


5. 月別入院・退院患者数



新入院患者数合計363人、退院患者数合計359人

6. 年代別・男女入院患者数(年間)



男性合計111人、女性合計252人、総合計363人

診療部・診療支援部 理念

思いやりのある医療と支援を
チームで提供します

基本方針

1. 安全かつ良質な専門的医療を提供します
2. 患者さんの主体性を尊重し、チーム医療により支援します
3. 医療スタッフの資質や技能の向上および人材育成に努めます
4. 地域の方々と連携し、住みよいまちづくりに貢献します

医 局

1. スタッフ紹介

精神科医：常勤 8 名（精神保健指定医 7 名）

非常勤 2 名（精神保健指定医）

内科医：非常勤 2 名

当院の精神科常勤医師のうち日本精神神経学会専門医制度精神科専門医は 7 名、指導医は 3 名である。外来と入院を同一の主治医が診療にあたるため、医療の継続性が保たれている。

2. 2023 年度の業務実績

1) 業務内容

精神科外来診療 精神科入院診療

大阪府精神科救急医療体制 協力病院

大阪市精神科二次救急医療体制 救急支援病院

大阪府・大阪市 精神保健福祉法 措置診察

大阪市精神医療審査会委員（高橋大輔）

大阪府三島精神医療懇話会委員（高橋大輔）

外来担当表

	月	火	水	木	金	土
1 診	三浦耕人	高橋大輔	岩井眞二	街 久	高石潤子	村木利光
2 診	荻野 淳				赤浦一幸	
3 診						

※外来はすべて予約制

2023 年 10 月 26 日大阪医科薬科大学で開催された第 26 回北摂四医師会神経精神医学研究会においてハンセン病問題について発表させて頂いた。

なぜハンセン病の話なのか。

高橋幸彦名誉院長は 1959 年に大学を卒業し医師となり、大阪で精神科医師として勤務していた。1962 年神谷美恵子先生から大阪大学精神科医局へ「誰か私と長島愛生園の精神科の診療を続けてくださる方がおられたら連絡ください」と依頼があった。1962 年 7 月 8 日に名誉院長が長島愛生園に赴き神谷美恵子先生に面会。以降名誉院長は茨木病院に勤務するとともに神谷美恵子先生とハンセン病療養所である長島愛生園、そして隣接する邑久光明園に精神科医師として勤務を続けた。途中、長島愛生園には岡山大学から医師の派遣があり、以降邑久光明園のみの勤務となり、1998 年 10 月からは私と交互に勤務。約 1 年後には私のみの勤務となり、現在まで約 25 年間勤務を続けている。

国立療養所邑久光明園の前身は、現在の大阪市西淀川区中 2 丁目にあたる場所（神崎川の中州で海拔ゼロメートル地帯）に公立のハンセン病療養所外島保養院を隔離収容施設として 1909 年 4 月に開設。その後、収容人数が増え手狭になったことから堺市泉北郡の高台への移転が検討されたが、地域住民、大阪府議会議員の猛反対に遭い、止む無く隣接地に土地を得て拡張工事を行っていた。その矢先 1934 年 9 月 21 日室戸台風の直撃により、施設すべてが倒壊流失し、在院者 173 名が殉難、職員 3 名、職員家族 11 名が殉職した。生き残った在院者は約 1 ヶ月の天幕生活後、全国 6 ヶ所の官公立療養所へ分散委託され、3 年半の避難生活を余儀なくされた。1938 年 4 月 27 日に外島保養院は名称を光明園と改め、岡山県長島にある国立療養所長島愛生園の西方に復興。その後、国へ移管され名称も邑久光明園となり現在に至っている。

現在、邑久光明園の入所者の平均年齢は 90 歳近くとなっており、なかには視力障害、手足切断、末梢神経障害による触覚、痛覚、温冷覚障害など多重の障害を持った方々もいる超高齢者施設となっている。私が邑久光明園での約 25 年間の勤務経験で忘れられないことがある。全国のハンセン病療養所で旧優生保護法による人工妊娠中絶でホルマリンにつけられた胎児の標本が邑久光明園にも存在することが判明した。標本ビンには名札が貼ってあり、生年月日と母親の名前が書いてあり一人の母親が特定された。その母親は健在であり告知した時、赤ちゃんには会わないと話されていたが、その後自ら会いたいと申し込まれ、愛おしそうに赤ちゃんを長らく抱きしめることがあった。またハンセン病により視力を失くし点字を指先で読むのだが、やがて末梢神経障害により指先の感覚もなくなり、舌で点字を読むという舌読により、舌が傷つき出血で黒く変色した本を見せて頂いたことがある。

今回、ハンセン病の症状、日本のハンセン病医療の過去、現在の状況、今後の課題、そして私が邑久光明園の勤務で感じたことを織りまぜ発表した資料を提示させて頂く。

医療法人清風会茨木病院 高橋大輔

ハンセン病問題について

2023年10月26日
医療法人清風会 茨木病院
高橋大輔

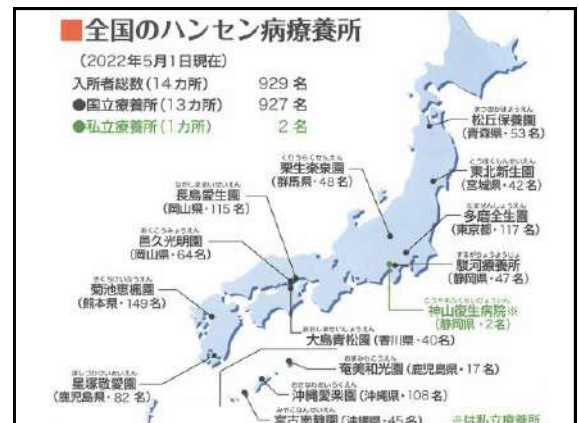
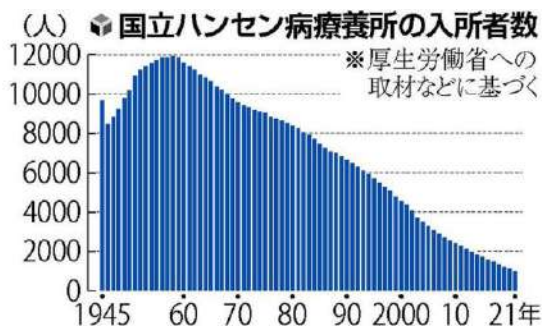
なぜハンセン病の話なのか

- 私は約25年前からハンセン病の診療に携わっている。現代の医学ではあまり触れられないハンセン病の過去、現在の状況を一人でも多くの人に知って頂きたい。
- ハンセン病の元患者は療養所、あるいは地域(療養所外)で生活しているが、現在もハンセン病問題は終わっていないことを知って頂きたい。



神谷美恵子の世界 みすず書房編集部【編】

- 神谷美恵子の世界
- 【目次】
- アルバム 神谷美恵子
- 講演録 フレッシュマンキャンプのために(神谷美恵子)
- 神谷美恵子先生との邂逅(高橋幸彦)
- 先生を偲んで(江尻美穂子)
- 「存在」を追って・神谷美恵子とヴァージニア・ウルフ(早川敦子)
- 精神科医としての神谷美恵子さんについて(中井久夫)
- 神谷美恵子さんの思い出(加賀乙彦)





外島保養院



外島保養院



外島保養院から邑久光明園へ

1907(明治40)年、現在の大阪市西淀川区中2丁目にあたる場所に、公立のハンセン病療養所「外島保養院」(定員300人)を、隔離収容施設として1909(明治42)年4月に開設。1934(昭和9)年9月21日、室戸台風の直撃により、一瞬にして187人の命が奪われた。1938(昭和13)年、岡山県瀬戸内市の長島に、府県立療養所光明園として再興、1941(昭和16)年7月厚生省へ移管され、国立療養所邑久光明園となっている。

室戸台風による被害状況



長島愛生園と邑久光明園

国立療養所邑久光明園の施設

- ・ 不自由者棟(1.2.3センター)
- ・ 健康舎(軽症者舎)
- ・ 病棟 老人センター
- ・ 医局棟 治療棟 管理棟 福祉棟
- ・ こうみょう会館 恩賜会館
- ・ 社会交流会館 自治会館 盲人会館
- ・ 寺町 霊安棟 納骨堂 旧監禁室
- ・ 旧火葬場(愛生園と共同利用)



国立療養所邑久光明園全景

ハンセン病とは

ハンセン病とは①

- ・ らい菌によって起こる感染症。主に皮膚と末梢神経(触覚、痛覚、温冷覚)が侵される。このため四肢末梢での外傷が多く、潰瘍化し重篤化すれば切断せざるをえないこともあった。
- ・ 潜伏期間は3年から10年以上。
- ・ らい菌はヒトの免疫で容易に死滅するため
発病は極めてまれ。

ハンセン病とは②

- ・ 社会の経済状態の向上とともに発症者は自然に減少していった。
- ・ らい菌は抗酸菌のため結核治療と同様の抗菌薬の多剤併用療法により治癒する。
- ・ 顔面神経麻痺による兔眼、三叉神経麻痺による角膜知覚障害・角膜炎から**失明**となることもあった。
- ・ 鼻軟骨炎のため鞍鼻となることもあった。

ハンセン病とは③

- ・ ハンセン病による激しい神経痛のために鎮痛剤、アルコールなどの依存、乱用をきたすこともあった。
- ・ 入所後も希死念慮が続き自殺企図。
- ・ 失明が近づくと不安、恐怖、抑うつ。
- ・ 強制的に堕胎されたことで自暴自棄、罪責感、罪悪感が続く。

ハンセン病とは④

- 中枢神経、即ち脊髄や脳幹部の細胞に菌が発見されることはあるが、それによる症状は認められず。臨床的には中枢神経を侵すことはないとされている。
- ハンセン病の罹患者には一般社会と同じように統合失調症、気分障害、神経症性障害、知的障害、認知症などの疾患がみられる。

ハンセン病とは⑤

- 障害を受けた皮膚は発汗が乏しくなり、健全な皮膚が発汗を代償するため、その部位での発汗が多いことから濡らされたと錯覚、幻覚、妄想を訴えることがある。
- 視力障害、手足切断、末梢神経障害による触覚、痛覚、温冷覚障害により見当識障害、錯覚、幻覚を訴え、認知症との鑑別が困難なことがある。

舌読



ハンセン病についての誤解

- 「恐ろしい伝染病」⇒発病は極めてまれ。
- 「遺伝する」⇒極めて弱い感染症。
- 「治らない」⇒治る。
- 「当時としては隔離は仕方がなかった」
⇒もともと隔離不要。
- 「日本で患者が減ったのは隔離のおかげ」
⇒隔離と無関係に自然に減った。

ハンセン病をおそれた原因

- ハンセン病は感染症だが、隔離などの特別な対策は不要。
- ハンセン病をおそれてしまった原因。
顔、手、足の変形⇒「醜い」と感じる感覚。
感染症⇒「こわい」という感覚。
↓
無意識からの偏見、心の持ち方の問題。

隔離が不要であった根拠

- 人から人に感染しにくい、生命に影響しないことから元々隔離の必要性は低かった。
- 明治以降、患者数が自然に減少していることがわかっていった。
- 戦後の特効薬プロミン以降は隔離の必要性が完全に否定された。
(2001年の判決文より)

強制入所

- 高齢者、子どもに関わらず、半数は「強制」または「半強制」（無らい県運動によって療養所以外に居場所をなくされた）。
- 残りの半数は家族を被害から守るため。治療のため（一般病院での診療は禁止）。だまされて（2～3年で帰れる）。



実質的には全員が強制入所であった。

不妊手術・人工妊娠中絶

- 所内結婚の条件として男性の不妊手術。
- 医師以外の者が施行した疑いがある。
- 妊娠した場合は女性の人工妊娠中絶。
- 大半が強制的であった。
- 妊娠8ヶ月～10ヶ月での「中絶」もあった。
- 旧優生保護法に基づき行われた。



強制隔離とならぶ重大な人権侵害。

罰則

- らい予防法で所長に「懲戒検束権」。
- 各療養所には監房（監禁室）が設置。
- 罰則の対象は逃走に関するものが大半。



罰則は隔離を完全なものにするためのもの
園に逆らうことが許されず。

旧監禁室（復元）



入所者の労働（相愛互助）

- 軽症者が重症者を介護する
- 治療助手 ガーゼ、包帯再生
- 衣類洗濯 裁縫、ミシン
- 食事運搬 炊事 残飯処理
- 土木、建築 農作業 畜産
- 尿尿汲み取り
- 火葬

全盲の人の労働（明治時代）



子供たちの労働(大正時代)



今後の課題

入所者の状況

- 入所者の平均年齢88歳、平均在所期間約60年。退所者の平均年齢約70歳。
- 入所者自治会の活動により療養環境は飛躍的に改善、平均寿命は遜色なし。
- しかし、いまでも家族を気遣い本名を伏せ連絡をとらず、遺骨の引き取りは多くない。
- 入所者の意向を尊重した運営と家族関係の修復が必要。

退所者の状況

- 裁判後に退所者給与金が支給されるようになり、ようやく生活が安定化。
- しかし、周囲に元入所者であることを知られるのをおそれ医療や介護サービスを利用しづらく再入所した事例。
- 病歴を隠す必要なく地域で安心して暮らせる支援が必要。

全国の国立療養所と
過去10年の再入所者延べ数
※厚生労働省調べ



過ちを繰り返さないためには

- ①感染症は「こわい」？顔の変形は「みにくい」？
⇒ **疾病や障害への偏見のない社会をつくる。**
- ②多くの人を病気から守ることは大事。だけど患者はどうなる？
⇒ **社会の利益と患者の人権を両立させる。**
- ③患者を見下していないか？当事者の意向が尊重されているか？
⇒ **当事者の尊厳が守られ、当事者の意向が尊重される社会をつくる。**

薬 局

1. スタッフ紹介

主任 稲葉 勇城

薬剤師 4 名 薬剤助手 2 名

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

1) 調剤業務

調剤数（月平均）：入院 2624 枚（前年比：123.7%）、入院注射処置 811 件（82.6%）

院外処方箋発行率：100%（外来処方箋 1049 枚 94.8%）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
外来処方箋（枚）	1081	1027	1108	1056	1057	1041	1048	1025	1063	1029	989	1067
入院処方箋（枚）	2405	2579	2622	2581	2720	2635	2634	2795	2707	2605	2518	2688
夜間処方箋（枚）	19	65	18	28	18	45	29	49	26	44	31	30
注射処置箋（枚）	608	888	621	758	793	992	949	1026	917	669	666	842

2) 薬剤管理指導業務 1067 件（前年比 91.4%）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
服薬管理指導	87	88	101	100	85	87	77	79	83	99	93	88

3) 後発品置換率

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
後発品置換率%	90.9	91.7	91.1	91.1	90.7	90.6	90.8	90.7	91.3	90.1	90.1	90.4

4) 新規採用薬、採用取消薬と後発品変更医薬品 （▼：後発医薬品）

●新規採用薬

・抗精神病薬

レキサルティ OD 錠（レキサルティ錠からの切り替え）デパス細粒（エチゾラム細粒からの切り替え）

・睡眠薬

なし

・その他

チアトンカプセル 10 mg、ロキソプロフェン Na ゲル、ロキソプロフェン Na テープ、フェブキソスタット錠 10 mg

●採用取消薬

コリオパン錠、フェルデン軟膏、フェルビナクテープ、アロプリノール錠

●後発品変更医薬品

ポララミン錠を▼d-クロルフェニラミンマレイン酸塩錠

5) DI 業務

DI : 11 件／年、医薬品鑑別 : 267 件／年

採用医薬品集の更新 (4 月)

6) 委員会

薬事委員会、院内感染防止委員会、褥瘡対策委員会、医療安全委員会、衛生委員会
リハビリ委員会

7) 研修

薬局内研修、院内研修、各種講演会、精神科薬物療法認定薬剤師講習会、
医薬品安全管理者研修

8) チーム医療への参加

病棟カンファレンス (本 3・本 4)、こころのトーク等

3. 今後の取り組み、2024 年度の目標

1) 医薬品の安全管理の充実

在庫管理の適正化、後発医薬品の積極的採用、適切な向精神薬使用の推進
誤薬防止への取り組み (過去の誤薬事例を分析・改善策の検討・及び検証)、
適正な抗菌薬管理への取り組み、調剤業務における安全管理の徹底

2) 服薬指導の取り組み

服薬指導について他職種との情報共有を行う

3) 他施設との連携

調剤薬局との情報交換、疑義照会への適切な対応

4) チーム医療への参加

服薬指導の推進、病棟カンファレンス等への参加

5) 医薬品情報の入手と整理、伝達

薬局ニュースの充実、DI 日誌への記載促進 (DI、疑義照会等)
副作用症例の情報把握・整理・フィードバック

6) 研修 (院内・院外)、講演会、学会等への積極的参加

検査室

1. スタッフ紹介

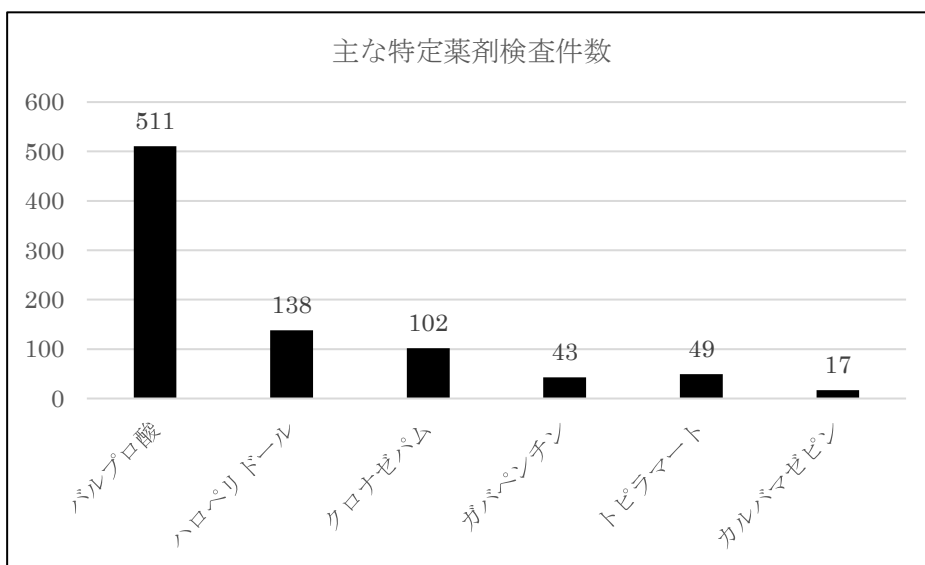
- ・検査室：臨床検査技師 常勤 2 名
- ・診療放射線室（CT、一般撮影、パノラマ）：診療放射線技師 7 名（非常勤当番制）

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

1) 検査実施件数

生理機能検査				
心電図	565	エコー	腹部	78
脳波	115		心臓	45

項目	件数	項目	件数	項目	件数
CRE	3332	CPK	3304	HbA1c	1067
BUN	3498	AMY	1965	Na	3756
UA	3144	T-CHO	2678	K	3761
TP	2362	TG	2674	Cl	3756
ALB	3611	HDL-C	2079	Li	169
T-BIL	3428	Ca	3397	ALP	2778
AST	3754	Fe	1632	LD	2546
ALT	3754	CRP	1728	CBC	3818
γ-GT	2930	GLU	3567	Diff	3011



2) 精度管理調査

- ①日臨技精度管理調査
- ②デタミナーサーベイ（ミナリスメディカル）
- ③SYSMEX 外部精度管理プログラム SNCS/eQAPi

3) 委員会

臨床検査適正化委員会、院内感染対策委員会、褥瘡対策委員会、医療安全管理委員会

3. 今後の取り組み、2024 年度の目標

1) 迅速かつ正確な検査情報の提供

各検査機器の定期的なメンテナンスを実施し、機器トラブルを防止する。
外部精度管理調査に参加し、正確な結果を提供する。

2) 患者さんの立場に立ち、安心・安全な検査に努める。

3) 検査機器の更新（自動血球分析装置）

4) ICT 参加：分離菌・耐性菌に関する情報の収集、他施設との耐性菌検出率の比較 → 週報および月報で臨床にフィードバックする

5) 研修会への積極的参加

6) 外来検査数の増加（採血、尿検査、心電図検査など）

7) 技師間の情報を共有し円滑な運営に努める。

地域医療連携室

1. スタッフ紹介

主任 井上 紀美子（精神保健福祉士） 他 精神保健福祉士 2 名

2. 2023 年度業務実績

精神保健福祉士が入院及び受診相談・受け入れ調整、外来患者の福祉サービス等の利用相談などを行っている。また、関係機関からの問い合わせ窓口となっている。

① 入院依頼元別件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
診療所	14	14	7	16	12	8	15	8	5	14	9	10	132
病院	8	13	19	19	22	18	15	9	13	16	10	14	176
救急隊					1	1							2
保健所	3	4	4	3	2	4	3	4	1	1	2	3	34
行政機関	3		1	2		2	1	1	1	3			14
法人内	5	6	2	2	6	5		5	6	6	1	8	52
本人	8	4	6	6	6	10	4	3	4	7	5	4	67
家族	15	9	12	13	8	14	9	9	16	17	16	15	153
その他	6	2	11	9	7	5	7	8	5	6	9	3	78
計	62	52	62	70	64	67	54	47	51	70	52	57	708

- ・医療機関（診療所、病院）からの依頼が全体の 43%を占めている。
- ・その他は多岐にわたるが、高齢者施設や地域包括（ケアマネージャー）などが多い。
- ・認知症の相談は 82 件で全体の 12%である。

② 地域連携

i) 医療機関への訪問

6 月に近隣の医療機関（病院・診療所）に訪問し、地域のニーズや医療機関の現状等の情報交換を行った。今後も地域機関との連携を深めていく。

ii) 広報活動

広報委員会の委員として、広報誌の企画や作成をし、関係機関に送付した。

今年度は年 3 回の広報誌の発行により、医療法人清風会の取り組みや活動についての情報を発信した。

また、ホームページのお知らせを必要に応じて更新し、情報発信とした。

3. 2024 年度事業計画

地域医療連携室の業務を医療情報管理室（新設）と医療福祉相談室で担うよう体制の見直しおよび組織の変革を行う。

医療福祉相談室

1. スタッフ紹介

副主任 和布浦 望（精神保健福祉士）

他 精神保健福祉士 4 名

2. 2023 年度の活動報告

1) 入院患者の相談・援助

6 病棟を 5 人の精神保健福祉士で分担。地域医療連携室の 3 名の精神保健福祉士と各病棟の主担当・副担当を決め、医師・病棟看護・その他の多職種との業務連携に努めた。

医療保護入院者の退院後生活環境相談員は精神保健福祉士が担当。本人、家族への相談援助を行い、医療保護入院者退院支援委員会を実施。入院療養に関わる相談、退院に向けた相談や地域支援機関との調整、同行や会議開催など具体的な支援を実施している。入院中はもちろん、退院後も継続して本人との関わりや関係機関との連携など支援を行っている。

2022 年 11 月に開設した認知症治療病棟では、担当の精神保健福祉士を配置し、定期的な病棟カンファレンスにて支援状況を共有しながら、入院の相談や退院の調整を行っている。主に、認知症の方の家族、茨木市内の地域包括支援センター、近隣医療機関などから入院相談を受けている。

ケア会議・カンファレンス	13 件	医療保護入院者退院支援委員会	92 件
--------------	------	----------------	------

2) 入院患者の退院支援

2023 年度の退院患者数は 329 名。その内、PSW が退院支援したケースは計 255 名であった。

退院前訪問指導の実施は 101 件で、内容としてはグループホームや日中活動先の見学同行、自宅訪問しての退院後の生活準備など、となっている。

新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、入院患者の外出等制限が緩和されたことから、退院支援として行う院外での支援件数が増加した。また、これまで退院患者の退院前訪問指導件数を集計していたが、2023 年度からは 1 年間に実施したのべ件数（同一患者で複数回実施あり）を集計することとし、入院中の患者の退院前訪問指導も件数に含むこととしている。

3. 2024 年度目標（事業計画）

1) 法改正への対応

精神保健福祉法が令和 6 年 4 月に一部改正されることに伴う変更事項に対応する。

2) 部署機能・業務の整理・見直し

医療福祉相談室、地域医療連携室の機能、役割について整理する。

3) 家族支援

OT センターと協力してニーズ整理、家族支援の企画・立案・実施

4) 外来支援体制整備に向けた準備

5) 地域啓発

デイケアセンター

1. スタッフ紹介

デイケア副主任 南 千恵（作業療法士）

他 作業療法士 2 名、看護師 1 名、精神保健福祉士 2 名

2. 2023 年度活動報告

1) 月別利用状況

(表 1)

項目 月	活動日数		利用者数		合計 のべ	在籍者数	1 日平均	
	DC	SC	DC	SC			DC	SC
4 月	22	22	376	424	800	184	17.1	19.3
5 月	22	22	392	439	831	186	17.8	20.0
6 月	24	24	473	455	928	186	19.7	19.0
7 月	22	22	435	380	815	188	19.8	17.3
8 月	23	23	421	372	793	184	18.3	16.2
9 月	21	21	386	362	748	187	18.4	17.2
10 月	23	23	426	369	795	188	18.5	16.0
11 月	22	22	391	377	768	188	17.8	17.1
12 月	22	22	397	363	760	190	18.0	16.5
1 月	21	21	383	329	712	190	18.2	15.7
2 月	21	21	363	350	713	192	17.3	16.7
3 月	22	22	351	428	779	189	16.0	19.5
合計	265	265	4,794	4,648			18.1	17.5
平均	22	22	399.5	387.3	787		18.1	17.5

2) 事業計画

- ①目標数値 DC 22 人／日 SC 20 人／日
- ②デイケアにおける支援の質を高める
- ③利用者数、利用件数の増加
- ④チームアプローチにおけるシステムを構築する
- ⑤業務の効率化
- ⑥人材育成
- ⑦感染対策

3) 全体経過

社会資源の変化に伴いデイケア利用者が全国的にも減少傾向の中、新規利用者獲得に向け他部署連携・外部への発信は継続した。1 日利用平均は、デイケア 18.1 人、ショートケア 17.5 人と前年度に比べマイナス 1 名ほど下回る結果ではあったが、月による変動は少なく年間通して安定はしていた。新規依頼数、入所者数は例年よりも少なかったが、リワーク目的のケース 3 名を、オンワークと共同で無事に復職へとサポートできた経験を来年度も活かしていきたい。

コロナ禍で 3 年程中止となっていたデイケア家族会を今年度より再開。年 4 回実施し、のべ 60 名のご家族に参加していただいた。

電子カルテ導入に伴い、メンバーとスタッフ共同で評価計画を行うデイケアパス（診療計画更新書）の改定も行った。人材育成の観点より、他のデイケアへの見学実習やデイケア連絡会への出席など外部からの情報収集も行った 1 年であった。

4) 治療プログラム

各目的別に 30 種類以上のプログラムを常時運営（表 2）、3 か月ごとにプログラムの振り返りと構成の見直しを行っている。

今年度は、スポーツを通じた外部との交流企画である S リーグが 3 年ぶりの対面開催となり卓球大会を実施、他のデイケアとのフットサル交流会も行った。他にも、ストレス耐性の評価などを目的に高次脳機能障害ケースへ個別リハを実施した。

季節行事としては、夏祭り、クリスマス会、大掃除忘年会、新年会などがあるが、中でも第 6 回デイケア祭りでは、デイケア開設 30 周年を記念した展示やステージ発表、ハーブティーカフェなどの企画を行い、来場者数は利用者職員含め 120 名を越えた。

(表 2)

デイケア週間プログラム		2024年1月～3月末					
		月	火	水	木	金	土
午前 ショートケア	9:00～	開所 ・ セルフチェック					
	9:20～	ストレッチ体操 ・ 始まりの会					
	10:00～	午前のプログラム開始					
	ク ラ フ ト エ 房						
	ウォーミングアップ	カラオケ	音楽百歌	ウォークラリー /ロコトレ	園芸	第2：クッキングイベント	
	園芸	フィットネス	脳トレ	コアトレ	マインドフルネス	第4：フリースポーツ	
	11:20～	食事準備					
	11:30	AMSC終了					
	11:40～	昼食					
	12:30～	PMショートケア 受付開始 ・ セルフチェック					
午後 ショートケア	12:50～	ストレッチ体操 ・ 始まりの会					
	13:30～	午後のプログラム開始					
	暮らしセミナー 冬の健康講座	1月～2月 こころのトーク 3月 メンストークサロン	陶芸	くつろぎタイム	クラフト工房	クラフト工房	
	楽器クラブ	ほっとブレイク	将棋・ゲーム サークル	喋ろうサークル	ほぐ活	将棋・ゲーム	
	コソコソゆる筋トレ	第2・4 デイケア見学ツアー いい旅ビヤ気分	スポーツ	スポーツサークル	ニュースポーツ		
	15:00～	消毒作業					

デイケア利用時は必ずマスクの着用をお願いします。
6Fで行うプログラムやスポーツへ参加する場合は、飲料を必ずご準備ください。お持ちでない方は、参加出来ません。

初心者向け	身体機能を高める	スキルアップ講座	趣味活動を増やす
こころと身体を整える	自主性を高める	認知機能を高める	サークル活動

3. 2024 年度事業目標

1) 事業計画

- ①目標数値 DC 20 人／日 SC 20 人／日
- ②利用者数安定に向けリワーク宣伝強化、季節行事年間スケジュール
- ③人員配置変化への対応（休所期限の設定、DC パス頻度見直し）
- ④利用者へのサービスの質を高める（ケースミーティングなど定期的に実施、満足度調査実施）
- ⑤家族支援 年間 4 回開催目標
- ⑥人材育成（目標管理振り返り年 3 回、学会・研修への参加）

作業療法センター

1. スタッフ紹介

リハビリテーション室室長 中野 郁子（作業療法士）
 他 常勤 作業療法士 6名
 非常勤 作業療法助手 2名 音楽療法士 1名

2. 2023 年度利用実績

（表 1）参加状況（単位：名）

	のべ参加数	AM 参加数	PM 参加数	一日平均	請求総数	一日平均請求数
4月	1,599	548	1,051	80.0	1,554	77.7
5月	1,340	569	771	67.0	1,299	65.0
6月	1,845	791	1,054	83.9	1,743	79.2
7月	1,731	771	960	86.6	1,617	80.9
8月	1,655	685	970	78.8	1,575	75.0
9月	1,887	724	1,163	94.4	1,771	88.6
10月	1,935	889	1,046	92.1	1,792	85.3
11月	1,760	771	989	88.0	1,626	81.3
12月	1,919	830	1,089	96.0	1,797	89.9
1月	1,713	773	940	90.2	1,598	84.1
2月	1,619	702	917	85.2	1,542	81.2
3月	1,566	694	872	78.3	1,483	74.2
合計	20,569	8,747	11,822	85.0	19,397	80.2

3. 2023 年度事業報告

1) 週間プログラム

（表 2）週間プログラム

2023 年 3 月末現在

	月	火	水	木	金
9:30	個人 OT	個人 OT	個人 OT	個人 OT	個人 OT
	スポーツ	園芸	カラオケ／音楽	いきいき体操	園芸
11:30	本 5 病棟 OT	本 5 病棟 OT		本 5 病棟 OT	本 5 病棟 OT
13:00	本 5 個別 OT	本 5 病棟 OT	本 5 病棟 OT	本 5 病棟 OT	本 5 病棟 OT
	東 1 病棟 OT	いきいき体操	リラクゼーション	本 4 病棟 OT	東 2 病棟 OT
15:00	東 3 病棟 OT	DC 見学ツアー	東 1 病棟 OT		機能回復訓練
17:00	機能回復訓練	本 3 病棟 OT		本 3 病棟 OT	

※ 1 個人 OT：OT センタープログラム。各自が過ごし方を決め、自身のペースで取り組む。

※ 2 病棟 OT：スタッフが病棟へ出向き、病棟内の全員を対象としたオープン形態の活動。

※ 3 上記以外に随時、個別プログラムを実施（面接、個別援助、身体的リハビリなど）

2) 事業報告

①病棟機能に対応したプログラム整備

・急性期リハビリテーション：病的で不安定な状態からの早期離脱、現実感の回復、沈黙状態や不安定状態の遷延化による二次的障害を防ぐことを目的に棟内個人活動とリラクゼーションを実施。退院後の生活のイメージを持つ機会としてデイケア説明会や社会資源講座を回復段階に応じて導入し早期退院につなげる方針。また、心理教育として疾患を問わない「ストレスマネジメント(ストレス対処についての講座)」を 3 か月に 1 回実施し、自己コントロール

ールを促す関わりを行った。OT センターでは退院に向け活動範囲の拡大や、個人の目標に応じた活動を提供している。

・慢性期リハビリテーション：急性期を過ぎた入院層全てが対象になるため、幅広いプログラムが求められる。質の高い療養生活の提供、新たな長期入院を作らないための取り組み、ADL 機能や介護度の維持、QOL の向上など。病棟ごとに担当者をおき、リハビリテーション委員と連携して対象層に合わせた活動を実施。長期入院者の地域移行の取り組みも感染対策の制限緩和に伴いデイケアとの交流会などから少しずつ再開した。今後は対象層の分析を行い、各層に必要なプログラムを効果的に実施できるようにしていく。

・認知症リハビリテーション：2022 年 11 月より認知症治療病棟として稼働し、生活機能回復訓練の一環として週 5 日棟内活動を実施。日々のリアリティオリエンテーションをはじめ、体力維持を目的とした体操や散歩・外気浴、認知機能維持を目的とした脳トレ、季節感を得ること・情緒的な反応を促す目的の回想法や創作活動・音楽療法・季節行事を実施。また、運動機能の改善や生活技能評価、隔離拘束が長期化しないことを目的に個別リハを適宜実施した。今後は対象層を小グループに分け、それぞれに合わせた活動を取り入れていく。

・身体リハビリテーション：東 2 病棟内に場所を設け、身体的機能回復訓練を週 2 回実施。主に廃用性の身体機能低下や骨折後を対象とし、ROM 訓練、立位保持訓練、歩行訓練、生活動作訓練等を行っている。今年度は 42 名実施（うち 18 名が目標達成し終了）。廃用からの歩行訓練や骨折後のオーダーが増加しており、対象者の選定や終了判定は身体的リハビリテーション委員会の場で行っている。身体リハ終了後にはいきいき体操への促しや病棟と連携して環境調整を行った。また機能維持に努め退院していくケースが多かった。さらに、患者自身に転倒予防を意識して生活してもらうために体力測定会を実施している。

②在宅支援部門との連携

社会資源講座での連携が主となった。来年度以降、入院から外来への繋ぎを意識して、デイケアとの交流を促進していきたい。

③リハビリテーション委員会

月 1 回委員会を開催。病院全体の行事運営と、各病棟及びデイケアのリハビリテーションに関する方針を立て、それに沿った年間の取り組みを計画立案、実施している。

④家族へのアプローチに参画

感染状況を見ながらであったが、今年度は見送った。

3) 全体経過と来年度に向けて

今年度は 5 月に新型コロナウイルス 5 類変更に伴い、プログラムを徐々にコロナ禍以前に戻していった。病棟ごとに実施していたプログラムから病棟を交えて実施するようにし、グループ活動を再開。飲食や外出を伴うもの、大規模行事なども一部再開していった。そういったこともあり、今年度も新型コロナやインフルエンザの感染状況によってプログラムが一部実施できない時期もありながらも、3 年ぶりに目標数値を達成することができた。

来年度は、それぞれの時期に応じたプログラムの充実を図ると共に、個別支援を充実させていき、入院から在宅への流れを強化していきたい。そのためにも、デイケアなどの在宅支援部門との連携強化やプログラムの乗り入れなど活発化させていきたいと考えている。またコロナ禍でストップしていた家族会も再開していきたい。

栄養科

1. スタッフ紹介

主任 白川 直美（管理栄養士）

鍋嶋 未来（管理栄養士）

委託スタッフ 管理栄養士 3名、栄養士 4名、調理師 5名、調理補助 15名

2. 2023年度の活動報告又は業務実績について

1) 食数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患者食	常食	13,333	13,830	13,729	14,683	14,679	13,898	14,021	13,678	14,723	14,298	13,532	14,706	169,110
	軟菜	11,376	11,658	11,356	11,643	11,662	11,940	12,570	11,319	11,072	11,379	10,703	11,250	137,928
	(キザミ・流動含)													
	治療食(加算)	1,924	1,810	1,774	1,585	1,509	1,779	1,897	1,851	1,837	1,778	1,729	1,835	21,308
	治療食(非加算)	270	279	270	278	279	270	361	360	369	313	409	464	3,922
	小計	26,903	27,577	27,129	28,189	28,129	27,887	28,849	27,208	28,001	27,768	26,373	28,255	332,268
デイケア食		374	392	474	435	418	387	426	376	400	354	359	347	4,742
オンワークお弁当		272	305	331	299	277	251	299	269	315	311	297	330	3,556
職員食		1,590	1,487	1,569	1,521	1,547	1,568	1,674	1,460	1,495	1,447	1,387	1,475	18,220
検食		149	151	156	155	160	149	156	147	153	150	147	152	1,825
合計		29,288	29,912	29,659	30,599	30,531	30,242	31,404	29,460	30,364	30,030	28,563	30,559	691,054

2) 診療報酬 算定件数

入院時食事療養 (I)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	26,903	27,577	27,129	28,189	28,129	27,887	28,849	27,208	28,001	27,768	26,373	28,255	332,268

特別食加算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1,924	1,810	1,774	1,585	1,509	1,779	1,897	1,851	1,837	1,778	1,729	1,835	21,308

食堂加算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	5,513	5,541	5,559	5,740	5,780	5,761	5,997	5,665	5,832	5,731	5,443	5,800	68,362

3) 委員会・会議参加

栄養委員会、院内感染防止委員会、褥瘡対策委員会、衛生委員会、防災委員会、
医療安全管理委員会、人権擁護委員会

4) 行事食・イベント食

日 時	行事食名	内 容
4月13日(木)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 長崎県 ～	カレーピラフ・牛肉のレモンステーキ風・きのこソテー キャベツのサラダ・ジュリアンスープ
5月 5日(金)	こどもの日	押し寿司・いなり寿司・天麩羅・赤だし・抹茶ババロア
5月16日(火)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 栃木県 ～	藤色御飯・餃子のおろしあんかけ・しもつかれ風 アスパラの生姜風味・すまし汁・藤色ゼリー
6月 2日(金)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 青森県 ～	鶏めし・ブロッコリーと帆立の青じそ和え せんべえ汁・りんごゼリー
7月 7日(金)	七夕	散らし寿司・ブロッコリーのそぼろあんかけ・ミニそうめん スイカ
7月18日(火)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 静岡県 ～	さくら御飯のうな井・ピーナッツなます・味噌汁・抹茶プリン
8月10日(木)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 和歌山県 ～	かきまでご飯・ガンモと冬瓜の炊き合せ・胡瓜の梅和え すまし汁・みかんゼリー
9月 1日(金)	グリーンハウス 16周年	舞茸ご飯・豚しゃぶ・天麩羅・清汁・リンゴフルーチェ
9月12日(火)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 愛媛県 ～	しょうゆめし・いもたき・白菜の酢の物・抹茶ゼリーあんみつ
10月12日(木)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 神奈川県 ～	シラスと梅の御飯・豚肉のほうじ茶蒸し・けんちん汁 フルーツポンチ
11月14日(火)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 愛知県 ～	味噌カツ丼・名古屋風ナポリタン・ブロッコリーの青じそドレ すまし汁・フルーツ2種
12月 7日(木)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 北海道 ～	帆立のバター醤油御飯・鮭のマヨネーズ焼・キャベツの塩昆布和え カニ入り味噌汁・バニラババロア
12月25日(月)	クリスマス	ビーフシチュー・かにクリームコロッケ・フレンチサラダ・ケーキ
1月 1日(月)	おせち	赤飯・魚の塩焼・照焼・煮しめ・紅白なます・和え物・黒豆 フルーツ・京風雑煮
1月23日(火)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 東京都 ～	深川飯・ちゃんこ鍋風・きんぴらごぼう・小松菜の柚子浸し 芋ようかん
2月 3日(土)	節分	助六寿司・切昆布と大豆の煮物・赤だし・卵ボーロ
2月22日(木)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 福岡県 ～	明太子御飯・がめ煮・れんこんの高菜炒め 菜の花の梅マヨネーズ和え・いちごゼリー
3月 3日(日)	ひな祭り	散らし寿司・炊き合せ・赤だし・ゼリー
3月21日(木)	バスで巡る絶景グルメ旅 ～ 大阪府 ～	お好み焼&たこ焼・青梗菜の炊いたん・焼なす・肉吸い

3. 今後の取り組み又は2024年度目標（事業計画）

- 1) 食事を通じて、正しい食生活と療養中の楽しさを提供する。
- 2) 委託業者と連携し、安全で満足度の高い食事の提供に努める。
- 3) 多職種と連携し、栄養知識の向上に努める。

医療安全管理室

1. スタッフ紹介

医療安全室長（専任） 下坂 保治

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

1) 医療安全

①医療安全推進活動を実施し全部署の事故防止・安全管理意識を高める。

- ・医療安全管理委員会を通し月毎の医療安全に関する情報を共有した。
- ・医療安全情報を収集し最新情報を配布、発信し安全を推進した。

②インシデント・アクシデントレポート報告を分析し、再発防止策を講じ業務改善に努める。

- ・ヒヤリハット・インシデント報告は、報告意識も上がり報告件数も増加していたが、新型コロナウイルスへの対応等により、報告件数は減少している。また特定の部署だけでなく、全部署より適切に報告されるよう「報告の意義」について理解を深めていけるように継続した取り組みを実施し推進してゆく。
- ・転倒・転落インシデントレポート、アクシデントレポートを分析・評価。
今年度も転倒による骨折が連続して報告され、入院患者さんの加齢による身体機能低下の影響と考えられる。病棟内環境において床の水分を早めに除去する事の徹底や履物の点検を複数回実施した。
- ・暴力の早期発見や介入、暴力に関する教育等を「DD を学ぶ会」によるラウンドを継続して実施している。暴力に関するインシデントやアクシデントを未然に回避できた事象報告もみられるが、介護抵抗による職員の受傷報告も増加傾向にある。

③医療安全に関する研修内容の充実を図り、知識・技術・情報を周知する。

- ・院内の医療安全研修は定期研修に加え e-ラーニングでも行い、全員に周知出来るように各自の部署で調整し、e-ラーニングの視聴を行った。
- ・暴力に関する教育研修会を実施。特に入職間もない年数の看護職員を対象として暴力に関する知識や技術を学ぶ。

2) 院内感染

①他施設や地域との連携から得られた情報を可視化し院内での周知に努める。

- ・新型コロナウイルス感染対策などの外部関係機関との情報共有や現場において受けた指導により感染対策の対応を行う。また、得られた情報は感染に関する会議体において院内で文書やポスター等の形式で共有する。

②院内感染対策の周知徹底と強化、アウトブレイクの防止に努める。

- ・手指消毒液の使用量を可視化することで、スタッフの意識向上がみられ手指消毒液の使用量増加や意識向上につながった。
- ・手指衛生を中心に、ポスターセッションや手洗いの体験研修を行った。参加者に実際に体験してもらうことで、正しい手指衛生を周知できた。
- ・新型コロナウイルス感染症発生病棟に対し現場に対し感染管理および感染対策の技術指導を実施。感染管理技術、感染対策の向上を図ることができた。

③ICT ニュースを活用し、感染対策の意識向上に努める。

- ・感染対策ⅠⅡ連携合同カンファレンスや他施設との連携で得られた情報、感染症の動向などをICTニュースで発信した。新型コロナウイルス対策に関しても、ICTニュースで発信し対策に繋げている。

3) 褥瘡対策

①褥瘡患者の院内発生予防とその重要性の周知徹底を目指す。

- ・特定の病棟に褥瘡発生患者さんが集結し効率的また個別性を重視した褥瘡対応が可能となった。
- ・回診の際に病棟スタッフに褥瘡予防の方法を伝え、褥瘡予防の教育に努めた。

②褥瘡対策についての院内研修を実施し、スタッフの意識と技術の向上に努める。

- ・褥瘡発生時の対応について研修を実施し、知識・技術向上に繋げることができた。
- ・皮膚科専門医による回診が定例となり安定的な褥瘡治療が実施できている。

3. 2024年度の目標

1) 医療安全

- ①院内全部署の医療安全意識を高め、医療事故を防止し医療安全文化を醸成させる
- ②インシデント・アクシデントレポート報告を分析し、再発防止に努める
- ③医療安全に関する研修を実施し医療安全に関する知識の習得とリスク感性を高める

2) 院内感染

- ①新型コロナウイルス感染症等を予防するため、状況に応じた院内感染対策を実施する
- ②院内感染対策に関する器材や手順の見直しを行い適切な対策の実施を図る
- ③季節や感染症流行時期に応じたタイムリーな情報発信を実施する

3) 褥瘡対策

- ①褥瘡患者発生予防への取り組みを強化する
- ②褥瘡対策に関する院内研修を実施し褥瘡発生に対する意識の向上を図る
- ③褥瘡発生時の対応力を向上させ早期の回復を図る

看護部理念

患者さん一人ひとりを尊びいつくしみ、安心できる環境の中で全人的に関わり、セルフケア能力の向上及び成長の促進を図り、よりよく生きることを支援します

基本方針

1. 患者さんの意思を尊重し、自己決定が行えるように支援します
2. 患者さんの安全の保証と信頼関係の構築を図り、安心して治療・療養に専念できる環境を提供します
3. 患者さんのあるがままの姿を受け入れ、かつ潜在する可能性に関心をむけ、セルフケア能力の向上及び自己成長を目指した看護を提供します
4. コ・メディカルの役割を理解し、患者さんのニーズに応じて連携を図り、多様なサービスを提供します
5. 専門職として自己研鑽に励み、患者さんとの相互作用を通して、看護者自身がたゆみなく成長します

2023 年度の看護部目標

- 1、「笑顔と声かけ」を大切に、患者さんに寄り添います。
- 2、セルフケア理論を実践し、患者さん個々のセルフケア能力の向上に活かします。
- 3、医療安全や感染管理に努め、患者さんが安心できる環境と看護を提供します。
- 4、他職種連携を推進し、よりよいチーム医療を実践します。
- 5、個々がスキルアップを図り、倫理観を高め、看護の質向上に繋がります。
- 6、時代の変化に合わせた新たなチャレンジを、積極的に支援します。

看護部（看護部長室）

1. スタッフ紹介

部 長：山口 伸二（2023 年 6 月末まで）奥山 修（2023 年 7 月より）

副看護部長：奥山 修（2023 年 5 月～6 月）

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

看護部では、①キャリア形成 ②管理体制の強化 ③経営参画の 3 つを基本として活動した。

- ① については、大阪府主催の実習指導者講習会に 1 名受講した。また、「看護補助者のさらなる活用に関わる評価」に関する研修について、看護師長をはじめ全看護職員が受講した。更に全ての看護補助者を対象に「看護補助者関連コース」の e-ラーニングを受講することができた。

教育体制については、次年度「看護研究委員会」は、「法人研修委員会」と協力しながら研修の充実を図りたい。

- ② については、看護師人員確保を安定的に行えた。補助者の確保は引き続き派遣会社頼みとなっており、法人の直接雇用について解決策を模索している。

新人看護師の獲得は、若干ではあるが行えた。

- ③ については、病床管理を看護部が主体的に担うことで、COVID-19 のクラスターにより入院などの制限はあったものの、前年度より病床利用率は改善した。

その他：法人職員全体を対象に虐待防止に関する対面研修を 12 回（内容は同じ）行い、虐待に関する倫理観の醸成を図った。

3. 今後の取り組み又は 2024 年度目標（事業計画）

次年度は、看護部内の体制を刷新し、①人材育成 ②看護部内体制の再編 ③前年度同様に経営への参画を念頭に置きながら活動していく。

今後も人材を育成し、教育の充実を図り、看護の質の向上を目指す。また、委員会活動や管理体制を再編成し、組織としての役割分担を明確にし、安定した組織運営を目指す。

看護者の人員確保に関しては、人事と相談しながら、優秀な人材の確保を目指す。

経営参画については、病床管理体制の充実を図り、充床率の向上を目指す。

本館3階病棟

1. スタッフ紹介

師長	1名	主任	1名	副主任	2名	
看護師	22名	准看護師	1名	看護補助	5名	合計 32名

2. 2023年度の活動報告又は業務実績について

病棟目標と評価

【目標1】患者さんの気持ちに寄り添い、自身の行動や言葉を客観的に見る姿勢を大切にします

【評価】定期的に倫理カンファレンスや接遇カンファレンスを行い、虐待についての研修を全員が受けるようにするなど意識を高めることができた。

【目標2】患者さんの「できること」と「できるようになりたいこと」を考え、具体性をもって提案、支援していきます

【評価】カンファレンスなどを通して、患者さん一人ひとりの個性に合わせてケアプランを作成することができた。

【目標3】医療安全や感染管理についてルールを順守しつつ、現実的かつ建設的な改善策を模索していきます

【評価】セーフティナースを中心に手指消毒の意識を高めるための活動を病棟全体で取り組みを行ったが、数値的には低値を示した。

【目標4】「連携」を進めるために積極的に自分たちから情報を発信し、自分たちから獲得していきます

【評価】多職種カンファレンスを1回/週開催するなど、変化の多い急性期病棟で情報の共有をすすめることができた。

【目標5】自部署の内外を問わず建設的かつ合理的な意見交換を行い、新しい病棟機能をスムーズに構築していきます

【評価】多職種カンファレンスや病棟会を定期的で開催するとともに、必要な時は素早く連絡を取り合ってスムーズに業務を進めることができた。

3. 2024年度病棟目標

- 1) 疾患により低下したセルフケア能力を見極め、的確な援助方法を患者さんと共に考えていきます
- 2) ヒヤリハットの意識を高め、事故を予防します
- 3) 多職種カンファレンスの定期開催と共に、様々な方法によりコミュニケーションをとっていきます
- 4) 倫理カンファレンス、虐待についての勉強会を定期的を開催し、虐待防止の素地を作ります
- 5) 急性期病棟として病床稼働率を上げるためにも、個室から早期に出られるように援助をしていきます

本館 4 階病棟

1. スタッフ紹介

師長	1 名	主任	1 名	副主任	1 名	
看護師	11 名	准看護師	5 名	看護補助	2 名	合計 21 名

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

病棟目標と評価

【目標 1】笑顔で穏やかに声掛け、いたわりと思いやりの気持ちで丁寧に対応します

【評価】定期的に倫理カンファレンスを行い、その内容をスタッフ全員で共有。伝達事項ノートやカンファレンス議事録を出勤時に必ず目を通すよう周知。

【目標 2】個別性のあるセルフケア理論を展開し、患者さんのセルフケア能力の向上を目指します

【評価】患者さん個々については最低 3 ヶ月に一度の評価が行え、個人差はあるものの患者さんのニーズに応じたケアプランの提示が行えている。また週 1 回の他職種合同カンファレンスを開催、患者さんの情報共有が図れた。セルフケア理論の外部講師の研修では、休日にもかかわらず参加するスタッフもいた。

【目標 3】事故防止や暴力・感染対策に努め、安全で安心な環境づくりをします

【評価】COVID-19 も 5 類に変更になるが発生時の対策や対応に追われた一年。インフルエンザのアウトブレイクや、COVID-19 によるクラスター対応にて病棟スタッフも多数感染した。感染対策に対する意識が向上。療養環境を整えていくことや、患者さんからの暴力、ハラスメント対策も今後の課題。

【目標 4】倫理的視点で人と人の繋がりを大切にし、看護の質向上に自己研鑽します

【評価】虐待やハラスメントについてを中心に、e-ラーニング視聴や各テーマでカンファレンスを実施。虐待やハラスメントについての周知徹底。今後も継続。

3. 2024 年度病棟目標

1) 笑顔でいたわりと思いやりを持った気持ちで丁寧に対応します

2) 一人ひとりの患者さんにセルフケア理論を展開し、セルフケア能力の向上を目指します

3) 事故防止や暴力・感染対策に努め、安全で安心な環境づくりをします

4) 倫理的視点で人と人の繋がりを大切にし、看護の質向上に努めます

本館 5 階病棟

1. スタッフ紹介

師長	1 名	主任	1 名	副主任	1 名	
看護師	14 名	准看護師	5 名	看護補助者	8 名	合計 30 名

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

病棟目標と評価

【目標 1】「知識を活かし、笑顔で丁寧な対応を行います」

【評価】個々の知識向上には努力がみられ、コミュニケーションを大切にすることを心がけ、病状に応じて寄り添う対応ができていた。日々の関わりの中で、感情に左右されず丁寧な対応を今後もしていきたい。

【目標 2】「個々のセルフケアを知り、今できることを大切にした関わりをしていきます」

【評価】セルフケアの評価を行い、理解力や状況に応じたケアを行っている。できることや、本人が納得して行動できることに着目し、生活機能が低下しないように関わった。

【目標 3】「医療安全や感染管理の意識を持ち、安全で安心できる療養環境を提供します」

【評価】COVID-19 のクラスター化により、感染管理の困難さに直面した。スタッフへの感染管理教育の強化は引き続きの課題である。医療安全では転倒・転落のインシデントが多い。自己での安全確保、環境調整が難しいため継続し事故防止に努める。

【目標 4】「積極的に他職種との連携を図り、患者さんやご家族のニーズに対応します」

【評価】他職種でのカンファレンスを週 2 回行っている。生活機能回復訓練においても対応やケアの方向性の確認をし、本人・ご家族の思いを尊重しながら退院後の生活をイメージして支援している。

3. 2024 年度病棟目標

- 1) 個々のセルフケア能力を見極め、今できることを大切にした関わりをしていきます
- 2) 転倒・転落のインシデントが減少するように取り組みます
- 3) 積極的に多職種との連携を図り、患者さんやご家族のニーズに対応します
- 4) 定期的な倫理・虐待防止のカンファレンスを行い、意識付けをします
- 5) 病床稼働率を意識し、認知症の急性期症状がある方の入院に、すぐに対応できるようにしていきます

東館 1 階病棟

1. スタッフ紹介

師長	1 名	主任	1 名	副主任	1 名	
看護師	17 名	准看護師	1 名	看護補助者	10 名	合計 31 名

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

病棟目標と評価

【目標 1】患者さんの意思を尊重し、温かく丁寧な対応を実践します

【評価】高齢・終末期にあたる患者さんが家族と過ごせる時間を取り持って行きました。

【目標 2】セルフケア理論を活用し、個別性のある看護を展開します

【評価】看取りを迎える患者さんに家族よりアドバイスをもらい趣味や趣向を経口摂取や清潔・更衣などの援助に取り入れていきました。

【目標 3】感染管理を徹底して、患者さんが安心して生活できる環境を提供します

【評価】高齢であることの感染リスクを考慮して、感染予防を意識しました。具体的には病棟内で手の触れる箇所を全て消毒することと患者さんの口腔ケアを大切にしています。

【目標 4】他職種と連携し、患者さんと家族にとって、より良い支援を考えていきます

【評価】家族・医師・作業療法士・精神保健福祉士とともに患者さんの望むことを考えています。ベッド上で過ごす方、車イスの方に外気浴や買い物、散歩などを提供させて頂きました。

【目標 5】専門職としての自覚を持ち、自己研鑽に努めます

【評価】e ラーニングを鑑賞した内容をカンファレンスで意見交換しています。
精神科における身体管理について勉強会を行っています。

3. 2024 年度病棟目標

- 1) セルフケア理論を活用し、個別性のある看護計画の立案と実施をします
- 2) 感染管理を徹底し、患者さんが安心して生活できる環境を提供します
- 3) 多職種と連携し、患者・家族にとってよりよい支援を考えていきます
- 4) 倫理カンファレンスを通して、虐待防止の醸成に努めます

東館 2 階病棟

1. スタッフ紹介

師長	1 名	主任	1 名	副主任	1 名	
看護師	14 名	准看護師	2 名	看護補助者	4 名	合計 23 名

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

病棟目標と評価

【目標 1】自身の言葉遣いや表情を客観視し、寄り添う気持ちを表現できるよう努めます

【評価】昨年度に比べ接遇に関する患者さんからの指摘は減少しており、スタッフ間でも意識の浸透がなされつつあると考える。

【目標 2】セルフケア理論の認識を深め、個別的で効果的なケアの実践につなげます

【評価】ミーティングやケアカンファの場で、問題点のみでなくストレングスに着目したアセスメントが表現される機会が増えている。

【目標 3】転倒転落、誤薬、暴力、感染対策に努め、安全で安心な環境づくりをします

【評価】薬に関するインシデントが多く、個人とチームの両方から対策を講じる必要がある。暴力については予防や回避が困難な例も多く、患者、スタッフの双方の安全について具体的な策を講じる必要がある。

【目標 4】多職種との関わりにおいて、互いの専門性を尊重しあえるような関係性を目指します

【評価】退院支援委員会の開催により PSW や OTR と情報の共有を行うほか、日頃から互いの役割を尊重したコミュニケーションを心がけることができている。

【目標 5】倫理観の言語化、行動化をより強く意識し、日々の看護、業務に反映させます

【評価】疾患に対する理解、専門職としての在り方など、倫理観を支える因子について役職者より頻回に発信しており、スタッフ個々が行動や言動に表現している。

3. 2024 年度病棟目標

- 1) スtrenグスに着目したケアプランの立案と実施を行います
- 2) 誤薬と暴力に関するインシデントの減少に取り組みます
- 3) 多職種との関わりにおいて、互いの専門性を尊重しあえるような関係性を目指します
- 4) 倫理観の言語化、行動化をさらに強く意識し、日々の看護、業務に反映させます
- 5) ベッドコントロールについて各自が能動的に考え行動します

東館3階病棟

1. スタッフ紹介

師長	1名	主任	1名	副主任	1名	
看護師	14名	准看護師	2名	看護補助者	4名	合計 23名

2. 2023年度の活動報告又は業務実績について

病棟目標と評価

【目標1】患者さんの意思を尊重し、温かく丁寧な対応を実践します

【評価】患者さんに対する言葉使いや姿勢に関して、主に倫理カンファレンスの時間を用いて振り返りや共有を行う。まだまだ課題は多くみられるが、少しずつスタッフ個々の意識変化がみられている。虐待に関するカンファレンスも開催され有効な意見交換の場となった。

【目標2】病棟内環境を意識しより安全な療養環境を提供します

【評価】病棟内に新型コロナウイルス感染症の患者さんが発生し、現状に応じた感染対策を実施し対応した。適切かつ速やかに感染発覚時の初動対応が実施できており、感染拡大を予防する事ができたと考える。

【目標3】セルフケア理論を活用し、患者さんのニーズに対応したケアを提供します

【評価】受持ち患者さんに対しセルフケア理論に基づきケアを展開する。それぞれの患者さんの個別性を重視し関わることを意識していた。実践したケアの評価において、より充実した記録を行い評価していく必要がある。

【目標4】多職種と連携し退院へ向けた支援を実践します

【評価】NS・PSW・OTが連携し退院支援カンファレンスを毎月実施した。また、患者さんの個別性に応じ、必要に応じ外部関係者とのカンファレンスの場にも参加する。多職種間においてより深い情報共有を行い退院支援に繋げていく必要がある。

3. 2024年度病棟目標

- 1) 患者さんの意思を尊重し温かく丁寧な対応を実践します
- 2) 病棟内環境を意識しより安全な療養環境を提供します
- 3) セルフケア理論を活用し患者さんのニーズに応じたケアを提供します
- 4) 多職種との連携を強化し退院へ向けた支援を実践します

医事課（病院受付・医療事務・外来診療事務・訪問看護事務）

1. スタッフ紹介

課長 濱田 健一

主任 瀬戸 衛史

その他 9名 合計11名

2. 業務内容

① 外来受付

外来初診・再診受付・医療費請求書発行及び領収。

初診〔年金・支援区分のみ〕予約の管理(初診予約受付・予約の変更等)

自立支援医療等手続き（患者さんへ期限の告知及び役所郵送等の手続き）

② 病院窓口（窓口会計）

入院料他入金業務

入院料の領収書発行及び受領

入退院の手続き

入院患者登録（保険登録含む）

入院手続き用紙（入院手続き確認シート）の発行

退院時の清算

小遣い預り金業務

小遣い預り金の入金及び出金

小遣い金管理者の売店及び院内洗濯代等の引落とし

診断書等の受付（診断書等申込書への記載）

診断書等出来上がりの連絡及び請求書発行・領収

病院内の案内

③ 外来診療事務

外来診療時の事務処理

外来診療録の確認・外来予約票の作成

診療材料の在庫管理

④ 医療費請求事務

入院医療費の請求書発行

銀行振込の医療費・小遣い預り金・文書料等の振替

⑤ 診療報酬明細書作成事務（レセプト）

診療内容の入力・レセプトの発行・点検・電算請求

レセプト作成時に、わかりやすい資料を作成し活用。

レセプト返戻・減点の管理

減点レセプトの再審査の請求書作成・郵送

（独自にレセコンにレセプトチェック項目を設定し減点の減少を図る）

⑥ 生活保護関係

外来・入院生保患者さんの医療券・意見書の請求及び郵送。

生保患者さんのおむつ代の福祉請求及び引落とし。

生保患者さんへの日用品費の病院振込又は現金書留の振替等。

⑦ 入退院関係

入院届・退院届・入院患者定期病状報告・病院報告提出及び管理
入・退院データの管理

⑧ 介護保険・障害程度区分認定請求管理

市町村より届いた主治医の意見書受付及び作成された意見書と請求書の郵送
意見書作成料銀行振込の病院への振替

⑨ 訪問看護指示書の管理

他機関からの指示書の受付・作成された指示書の郵送

⑩ 医事データ管理

病床稼働率、平均在院日数、外来・入院照会元リスト、医療費統計表、
レセプト返戻・減点管理、入院患者他科受診状況、診療行為別集計表等

⑪ 未収金管理

未収金者対応表（医療費等滞納者一覧表）の作成
毎月1回、未収金対策委員会を実施。
請求書の郵送・電話等の対応を決定。

⑫ 診療録（カルテ）の管理

外来・退院カルテの貸出管理（現在、ID番号順で管理）
長期受診の無い外来カルテ及び退院カルテの製本（毎年1回実施）
カルテ開示、カルテ照会書等の受付、請求処理。

⑬ 決算・未収金及び入院・外来人数統計表の作成（毎年4月に前年度分を作成）

前年度未収金明細書の作成。
（前年度未収金者名及び未収金額の明細書作成）
前年度入院患者・外来患者統計表の作成。

⑭ 電話交換

患者様及びご家族様の医師又は病棟等への取次ぎ。
外部業者等からの関係部署への取次ぎ。

⑮ 支援事業 請求業務

就労支援センター（オンワーク）請求業務
介護・訓練等の電子請求処理
地域活動支援センター（菜の花）請求業務
計画相談支援給付費等の電子請求処理

⑯ 訪問看護事業 請求業務

訪問看護ステーション（そよかぜ）請求業務
診療内容の入力・レセプトの発行・点検・電算請求
レセプト返戻・減点の管理
減点レセプトの再審査の請求書作成・郵送

3. 今年度の部署目標

- 1) 診療報酬の理解と、適切な請求への取り組み。
- 2) 業務改善へ積極的に取り組み、効率化を図る。
- 3) 他部署・部門との連携を図り、業務遂行に取り組む。
- 4) 信頼と安心を与えられる様、適切な対応・接遇を常に心がける。

地域活動支援センター菜の花

1. スタッフ紹介

副主任／施設長 岡 真士

他 精神保健福祉士 4 名

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

障害者総合支援法 地域生活支援事業 地域活動支援センター I 型事業

登録者数 158 名 (2024 年 3 月末現在)

延べ利用件数 8398 件 (2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

・当センターは、茨木市からの委託事業を実施している。

1) 委託業務内容

①創作活動または生産活動の機会の提供

「各種プログラム活動」；リハビリテーションや作業を目的とせず、生活支援として
毎月の定例プログラム・季節行事を実施している。

②医療、福祉及び地域の社会基盤と連携強化のための調整に関すること

ぐるうぷすばる (茨木市精神障害者福祉協会) に加入し、他機関や医療機関とともに、
交流会や研修会等のイベントに参加。2023 年度は、対面での行事を再開し、交流会
やクリスマス会を実施した。また、バスツアーも再開し、他機関の方も含めた外出プ
ログラムへの参加を行った。

③地域ボランティア育成に関すること

精神保健ボランティア団体「夢ふうせん」と市グループワークを運営。

④障害に対する理解促進を図るための普及啓発に関すること

- ・三島交流卓球大会を開催。地域の方や他機関、中学生との交流の機会になった。
- ・「茨木市地域自立支援協議会の当事者部会との交流会」を実施。ボッチャを通して
交流を行い、お互いの障害について理解を深めるきっかけになった。
- ・茨木保健所の家族教室で、当事者と講師として参加。当事者の体験談を発表した。
- ・「障害者の手作り作品展スペシャル」「ちかつアートフェスタ」に出展。
- ・「ダムパークいばきたフェスティバル」や「ふるさと祭り」、「おにも見にクルワー
クショップ」「三島まちの玉手箱」など、地域の行事に出店。

⑤精神保健グループワーク事業に関すること

毎週水曜日の午前中、茨木市障害福祉センター「ハートフル」にてグループワーク活
動を実施。精神保健ボランティアグループ「夢ふうせん」の方々に協力して頂き、事
業を継続している。必要に応じて、ボランティアの方と意見交換を実施している。

⑥関係機関との所要の連絡に関すること

⑦各月の報告書類等の作成

2) 当センターの特色

①生活相談

利用者が安心して地域で生活できるように支援を実施。必要に応じて面接や電話、訪問や関係機関との連携等、幅広く支援を行っている。相談内容は、心理情緒的な相談、医療、生活、就労、対人関係、社会制度の利用についての問い合わせ等多岐に渡っている。

②いこいの場の提供

利用者のペースで安心して利用できる場を提供している。日中活動先が増加する中で、ゆったりと安心して過ごせることを目的としたプログラム運営を行い、個々に合った利用の仕方をされる方が多い。就労系の事業所や、医療のデイケア等、他の日中活動先と併用も可能であることが強みである

・利用登録者データ

【登録者男女比】

	人数
男	102
女	56

【設備利用】

	延べ件数
入浴	68

【利用件数】

	延べ件数
いこい	4301
プログラム参加 (再掲)	1111

【年齢】

	人数
10 歳～20 歳未満	3
20 歳～30 歳未満	23
30 歳～40 歳未満	44
40 歳～50 歳未満	52
50 歳～60 歳未満	28
60 歳～65 歳未満	7
65 歳～75 歳未満	1
75 歳以上	0

【相談件数】

	延べ件数
電話	3080
面接	1169
ケア会議	12
連絡調整	742
訪問・同行	76

【相談内容】

	延べ件数
心理情緒的	2561
医療	127
就労	85
対人	36
手続き（制度）	86
その他	2092
登録・更新	92

*2021 年度より集計方法を一部変更

3. 今後の取り組み 又は 2024 年度目標（事業計画）

1) 委託業務内容は昨年度と同様

- ・日中活動先としての機能の充実
- ・地域交流や行事への参加を行い、広報・啓発活動の実施
- ・行事への参加や展示発表の機会を設け、積極的な社会参加への促し
- ・一日あたりの実利用人員は、20 人を下回らない程度とする。

菜の花障害者相談支援センター

1. スタッフ紹介

管理者 舟木 奈緒美（精神保健福祉士及び相談支援専門員）
他 精神保健福祉士及び相談支援専門員 2名

2. 2023年度の活動報告

1) 業務内容

茨木市精神障害者相談支援センター事業（茨木市基幹相談支援センターの一部）委託
指定特定相談支援事業所（障がい者・児）※障がい者のケアマネジメント「計画相談」
指定一般相談支援事業所 ※地域移行支援事業（退院促進支援）

2) 茨木市精神障害者相談支援センター事業における業務実績

①精神障害者等への総合的・専門的な相談支援の実施

地域活動支援センターの相談機能と合わせ、電話、来所、訪問等による相談に対応。

②精神障害者等の地域の相談支援体制の強化の取組

障害のある方やその家族への相談に加え、基幹相談の一部委託として精神障害のある方の相談を受けている委託相談や指定特定相談の後方支援を実施。客観的な立場で助言を行う、訪問に同行する、精神障害の方の相談において困難さを感じている相談員や、医療機関との連携で不安のある相談事業所のバックアップを行った。また、8050問題を背景としたケースの相談や子育て中の障害を持つ母への支援の相談が、地域包括支援センターや CSW から寄せられ、地域ケア会議や要保護児童対策地域協議会へも参加。20歳前後の新規ケースも目立つようになり、若年層の相談が増加傾向にある。又、計画相談の推進や相談支援事業者の連携強化を目的に、茨木市内の指定特定相談支援事業所の内 10 事業所を茨木市基幹相談支援センターと分担して訪問を実施。現場の意見をもとに今後の取り組みを検討した。

③精神障害者の地域移行・地域定着の促進の取組

茨木市障害者地域自立支援協議会専門部会である、地域移行・定着支援部会 精神科病院チームにて、課題整理や取組の提案など主導的な役割を担う。今年度は民間企業と医療機関の協力を得て「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の事例検討会を実施。次年度以降も継続の予定。

④精神障害者の権利擁護、虐待の防止

茨木市の虐待防止センターで受理した虐待事例に対して、コア会議や対応方針会議、レビュー会議に参加。通報等を受理した虐待事例全ケースの進捗管理を複数の視点でチェックし、組織として振り返りを行なう年 3 回のレビュー会議へは市内全圏域に参加。茨木市障害者差別解消支援協議会へ出席。

⑤精神障害者に対する地域における包括的なケア体制の充実

『精神障害者支援ネットワーク会議』の運営を事務局として中心的な役割を担っている。

⑥精神障害に関する理解の促進

2023 年度は茨木市基幹相談支援研修を茨木市と共催で実施。市内相談支援事業所の初任者を対象として、普段精神障害者支援に関わる若手相談員の育成研修会を実施。一部研修では講師を担った。

2023. 6. 26 「障害者を虐待から守りましょう！相談員の立場から虐待を未然に防ぐために」

講師：茨木市福祉総合相談課

2024. 1. 31 「みんなで考えよう！相談支援～グループスーパービジョンを通して～」

講師：菜の花障害者相談支援センター

⑦茨木市地域自立支援協議会の運営協力

基幹相談支援センターとして、全体会、事務局会議、定例会、相談支援部会、地域移行・定着支援部会、当事者部会、地域生活支援拠点のプロジェクトチームに参加した。

⑧茨木市総合保健福祉計画目標達成への参画

今年度は自立支援協議会においての地域生活支援拠点のプロジェクトチームの座長を担い、圏域毎の現状把握と緊急時の受入れ対応や相談機能の課題整理を行なった。

⑨委託業務関係図書の作成等

3. 指定特定・指定一般相談支援事業の業務実績

主に精神障害のある方の計画相談業務を実施。複合的な課題、世帯全体に支援が必要、司法との連携が必要なケースなどの支援計画を作成し、支援を行なう。

1) 計画相談 29 名 (うち新規 4 名)

年間モニタリング回数 113 回 サービス担当者会議 開催回数 42 回

2) 地域移行支援事業 0 名 (基幹相談として、他事業所へのサポートのみ実施)

4. 2024 度事業計画

1) 精神障害者相談支援センター事業 (基幹相談支援センターの一部) を受託。相談支援体制や地域づくりに参画する。

2) 指定特定ならびに指定一般相談支援事業について、委託事業 (基幹、地活) との業務バランスを考慮しながら、丁寧な支援を実施する。

3) 『地域から信頼される支援力』を目標に、他機関と連携しながら支援ネットワーク作りや地域への発信に努める。

オンワーク
就労支援センターonwArk

1. スタッフ紹介

管理者 細田勝世、サービス管理責任者 池上聡子、常勤 9 名、非常勤 6 名 計 17 名

2. 2023 年度の実施結果

就労移行支援事業、就労継続支援 B 型事業、就労定着支援事業、職場適応援助者（ジョブコーチ：以下 JC）支援事業、自立（生活）訓練事業の 5 事業を行った。10 月に「社会復帰支援センター架け橋」が開所し、新しい場所での活動開始となる節目の年となった。

1) 利用状況

月 人数		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
利用 件数	移行	182	190	207	187	180	169	191	140	168	179	162	206	180.1
	B 型	350	380	393	373	382	373	382	373	385	384	377	354	372.5
	生訓	117	113	110	103	97	110	114	115	114	105	101	354	107.9
	定着	22	22	22	21	21	21	20	19	20	18	19	106	20.3
	JC	8	8	19	17	20	16	22	16	13	19	21	20	8.3

3. 事業活動報告

1) 就労移行支援事業

引き続き障害種別や個々の状況は多様化している。多様な利用者を安定して就労につなげられるように就労に必要な知識を提供する勉強会や施設内外での様々な作業を通したスキルアップの機会の提供などプログラム内容の充実や手厚い個別支援に取り組んできた。今後もより個別のニーズに合わせられるよう柔軟な支援を行っていく。

【2023 年度就労者数：6 名】

業務内容	業種名	人数
事務	医療業・建設業	2 名
清掃	卸売業・医療業	2 名
作業員	製造業	1 名
調理補助	飲食業	1 名

2) 就労継続支援 B 型事業

新型コロナが 5 類感染症に移行し、喫茶運営やイベント出店を始めとする生産活動にも活気が戻ってきた。それに伴い「B 型の複数ある生産活動を B 型全体で支え運営していく」意識改革・仕組み作りを行い、院内や近隣公園の除草作業を B 型全員で取り組むクリーン

デイを創設、工賃の向上にも繋がった。また、10 月には「社会復帰支援センター架け橋」への移転に伴う作業導線の大きな変更や架け橋自体の清掃業務の受託等、変化の多い一年ではあったが、利用者・スタッフが一丸となって取り組みチームワークが高まった。

3) 就労後サポート事業;職場適応援助者 (JC) 支援事業、就労定着支援事業

今年度は一般企業への就労後「途切れない支援」が行えるよう、職場適応援助者事業 (JC) の登録時期を設定し、以下の2事業のシステムを稼働できた。JC は2名→3名体制で行い、ケースの共有・検討の時間を設定し安定した運営を行った。また、4年ぶりに卒業生・利用者交流会を再開し、7月と12月に実施した。また、JCの対象外である公務員や20時間未満の方に対する支援については、契約書を作成し原則フォロー契約に沿って進めるよう整備できた。就労継続支援A型や大学等の外部機関と積極的に連携をはかり、オンワークだけでなく外部の就職者も支援を実施している。休職者・休業中の方に対しての相談に応じ、面談や移行のプログラムの提供なども行っている。

4) 生活訓練事業

特別支援学校卒後の進路としてのニーズが高く、知的・発達障害者が主体のため、できる限り視覚化+体験重視の運営を試みている。利用期限2年のサイクルを初めて経験し、日々の運営については安定してきている。年度後半は、利用者層の雰囲気の変容が起こったことを生かし、これまでのスタッフ中心の運営から、話し合い、利用者の意見で決定する機会なども導入できた。来年度更に、生訓卒後につながるような自己判断や自己決定の経験を積み上げていける支援のあり方を模索していきたい。

5) 地域ネットワークへの参加、地域活動

- ・就労支援部会 (自立支援協議会)
- ・就労移行支援事業所連絡会
- ・就労継続支援B型事業所担当者会議
- ・生活訓練ネットワーク会議
- ・三島小学校との連携: 6年生交流会、ユニバーサルデザイン運動会
- ・みしま地区イベント参加: みしまふるさと祭り、みしままちの玉手箱

4. 今後の取り組み

「社会復帰支援センター架け橋」が地域の障害福祉サービス拠点の一つになるよう、関係機関と連携し各事業の安定運営をはかり、地域ニーズに幅広くこたえられる事業所作りを目指していく。今後は「就労選択支援事業」等の新規事業の展開を検討していく。

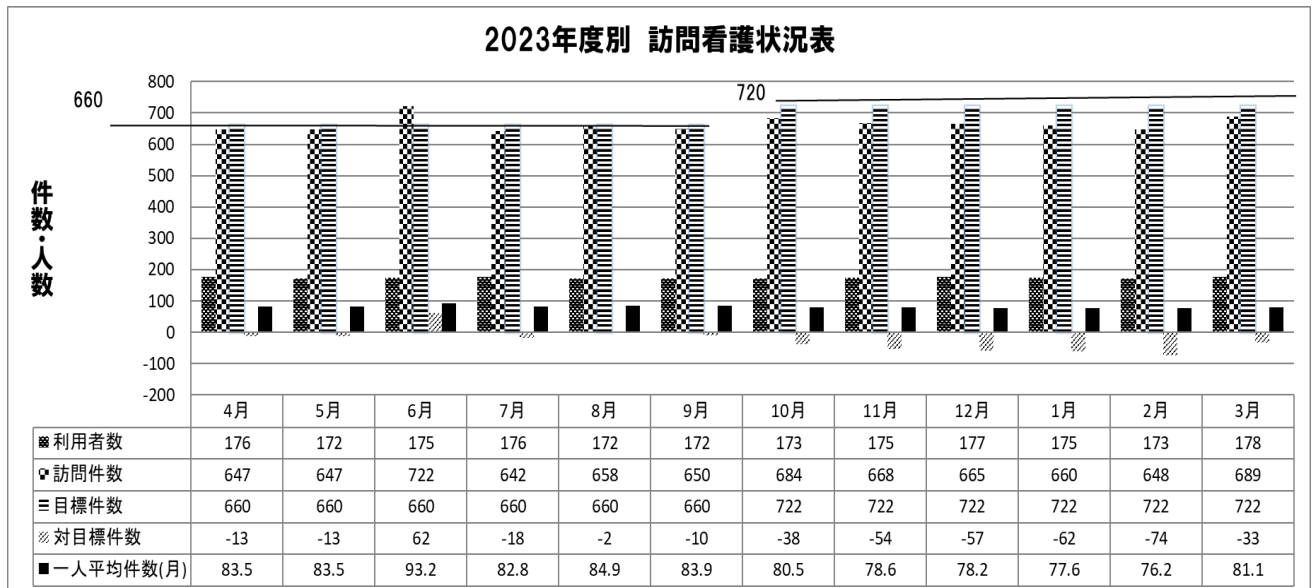
訪問看護ステーションそよかぜ

1. スタッフ紹介

所長 寺山 大和（看護師） 他 看護師 8 名 事務員 1 名 兼務 1 名

2. 2023 年度の活動報告又は業務実績について

訪問看護の利用者は 2024 年 3 月末時点で 178 名(月平均では 174 名)。複数名訪問を含む訪問件数は年間で 7980 件(昨年 7588)、月平均 679 件(昨年 632)であり、訪問件数の増加は人員の増加(7.75 人→8.5)が起因している。新規契約者数は 15 名と昨年度 21 名より減少したが、前記の人員増加と 12 月からの病院スタッフによる兼務にて複数名訪問が 10 件/月程度から平均 60 件/月へ増加しこともあり、収益は昨年度の 5.4%増加の 8915 万円(昨年 8451 万円)で終える。



3. 2024 年度事業計画

1) 定量目標

- ・スタッフ 1 人あたりの訪問件数 85 件 / 月
- ・1 か月あたりの総訪問件数 722 件 / 月 (85 件 × 8.5 人)
- ・法人内外からの依頼に対する積極的な受け入れ。

2) 定性目標

- ・個々のスキルアップを図り、倫理的視点から人と人の繋がりを大切にした関わりを実施。
- ・訪問看護の質を重視し、利用者からの信頼を得ると共に、他関係医療福祉機関からの依頼に答える。

地域啓発活動

I. 小学校区における啓発活動

1) 講演

2023年11月9日、三島小学校6年生約100名に「こころの病とは」というテーマで講演。三島小学校講堂で実施。



2) 交流会

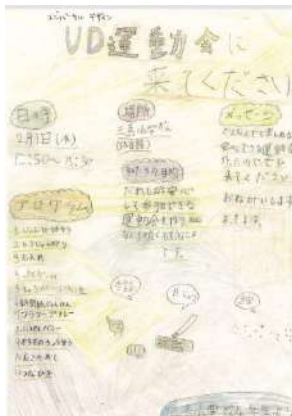
三島小学校6年生約100名に対し、クラスごとに交流会を実施。

2023年11月13日、15日、27日の3日間に分けて、就労支援センターオンワークとデイケアセンターで受け入れを行った。ビジネスマナー体験、ボッチャ、音楽療法を実施。



3) ユニバーサルデザイン運動会

2024年2月1日、三島小学校4年生が企画した運動会にデイケアセンター、就労支援センターオンワークから参加。



1. 地域イベント

1) 三島ふるさと祭り

2023年9月9日（土） 三島小学校グラウンドにて実施。地域活動支援センター菜の花、就労支援センターオンワークから参加。ボッチャ、クッキーや手芸品の販売を行った。



2) 三島交流卓球大会

2023年11月18日（土） 総持寺いのち愛ゆめセンターにて実施。
地域活動支援センター菜の花、就労支援センターオンワークから参加。

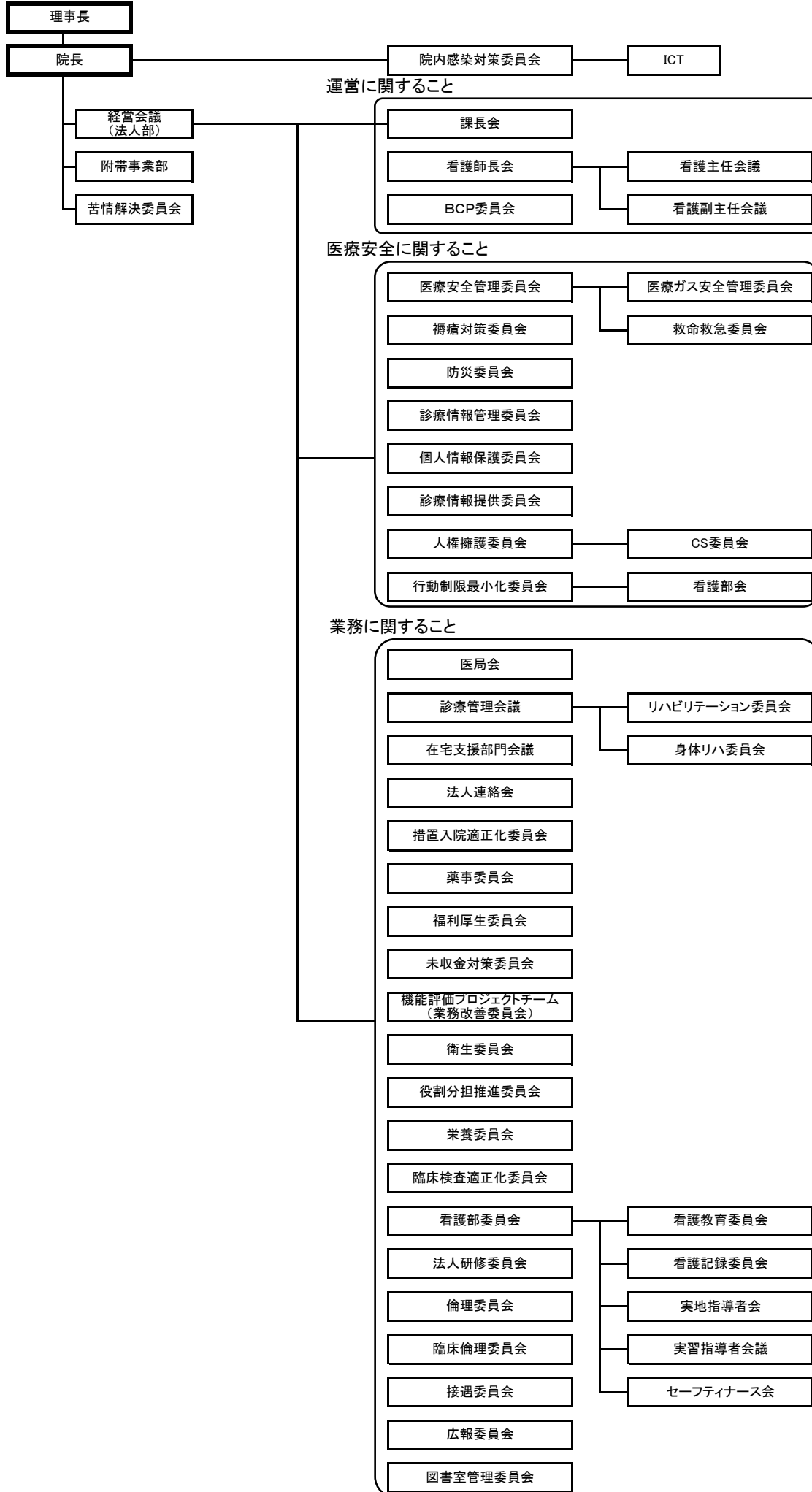


3) みしま・まちの玉手箱

2024年3月3日 いのち愛ゆめセンターにて実施。
地域活動支援センター菜の花、就労支援センターオンワークから参加。
ボッチャ、パン・クッキー・ドリンク・手芸品の販売を行った。



医療法人清風会 委員会組織図



委員会・会議名	主たる内容	開催数
経営会議	・茨木病院及び附帯事業の経営管理 ・予算の執行に関すること ・事業実績の検討、把握	月4回
BCP委員会	・災害など不測の事態により被害を受けた時でも、事業を継続していく、 或いは中断しても早期復旧を図るために、事前に対応策を準備する	月1回
役割分担推進委員会	・看護師の負担軽減 ・看護職員と看護補助者との業務内容及び業務範囲についての対策	月1回
法人連絡会	・法人決定事項の周知徹底 ・法人内各部署の連絡事項の伝達、情報の共有	月1回
診療管理会議	・診療に関する全部門の連絡、連携の円滑化 ・診療管理体制の整備 ・入院の妥当性についての検討 ・措置入院の適正化及び退院支援についての検討 ・チーム医療の推進	月2回
医局会	・新規入院者の事例検討 ・医局内の連絡事項、情報共有 ・診療管理会議の方針の確認	週1回
課長会/経営企画会議	・稟議議案の検討、承認 ・法人事務局業務の企画、調整	週1回
看護師長会	・看護部門の組織運営に関する事項 ・看護ケアの提供に関する事項 ・看護職員の教育、研修に関する事項	月2回
看護主任会議	・師長の補佐としての主任業務遂行に当たる ・良質の看護が提供できるように意識統一を図り、効果的部下育成の検討 ・主任としてのレベルアップを図る	月1回
看護副主任会議	・主任の補佐としての副主任業務遂行に当たる ・良質の看護が提供できるように意識統一を図り、効果的部下育成の検討 ・副主任としてのレベルアップを図る	月1回
看護記録委員会	・各種マニュアルの見直し ・看護基準、手順の見直し ・看護基準が効率的かつ安全に行えるように業務の改善を検討	月1回
看護教育委員会	・看護部職員の教育、研修の企画運営 ・院外研修会、学会の伝達講習の企画 ・看護部の研究発表等の指導	月1回
実習指導者会議	・看護学校との連絡調整 ・実習指導方針の検討、共有 ・実習指導に置ける各病棟での問題点の把握、共有	月1回
実地指導者会	・新規入職者に対する効果的指導の検討 ・チェックリストの作成 ・運用にまつわる問題点の抽出分析	月1回
セーフティナース会	・医療安全、院内感染対策について検討 ・各職場での実践の現状を報告、検討する	月1回
臨床倫理委員会	・医療行為や研究行為が十分な倫理的配慮の下に行われたかを審査検討すること	必要時
個人情報保護委員会	・個人情報の保護に関する規則や対応、情報周知及び安全対策の徹底	必要時
接遇委員会	・法人職員の接遇面の教育に当たる	年6回

委員会・会議名	主たる内容	開催数
診療情報管理委員会	・診療録の所在を明確にし、紛失を防止 ・カルテアリバイ管理システムの運用、管理 ・死亡カルテの整理と期限越えカルテの処分	月1回
診療情報提供委員会	・当院診療情報提供指針に則り、適切な診療録開示を行うため、審査を行う ・審査により開示を行う決定をした場合は速やかに実行する	必要時
救命救急委員会	・看護スタッフひいては病院職員全体の救急救命技術の向上を図るためのシステムを構築する	月1回
苦情解決委員会	・法人全体の苦情解決	必要時
図書室管理委員会	・図書の整備計画、図書の管理 ・新刊図書の調査 ・貸出し、閲覧方法などについて調査、協議 ・図書室を適正に管理し利用の促進を図る	年6回
防災委員会	・災害・火災時の担当、手順等の策定、及び具体的避難誘導等について訓練の実施、職員の防災・防火意識向上策について審議・検討を行う	年2回
広報委員会	・地域啓発活動及び広報活動の推進 ・ホームページの管理、運営 ・機関誌の発行 ・年報作成等	月1回
院内感染対策委員会	・院内感染に関する事項を審議すると共に、院内感染予防を目的として具体策を立案、検討しその決定による対策を実施することにより、充実した医療行為及び快適な療養環境整備を検討する	月1回
衛生委員会	・職員の健康管理 ・働きやすい労働環境作り	月1回
医療ガス安全管理委員会	・院内における医療ガスの取扱いについて、事故を未然に防止するための予防対策の立案、協議	年2回
薬事委員会	・新規薬剤の採否に関する事項 ・採用薬剤の削除に関する事項 ・在庫薬品の活用に関する事項 ・医薬品の適正使用に関する事項 ・院内薬品の副作用情報に関する事項	月1回
医療安全管理委員会	・医療事故防止のための具体的対策、研修及び教育内容について、検討及び実施、医療事故防止のための資料の収集等	月1回
褥瘡対策委員会	・院内での褥瘡発生の把握 ・対策の検討 ・知識、処理の職員教育	月1回
人権擁護委員会	・患者さんに対する人権の尊重及びその啓発 ・接遇の向上及び職員啓発	月1回
CS委員会	・医療サービスの向上と業務改善 ・患者満足度調査の実施	週1回
行動制限最小化委員会	・個々のケースの行動制限について、その妥当性を検討し、行動制限の最小化を目指す	月1回
栄養委員会	・食事療養の効果的实施 ・食事の質、食環境、衛生管理の向上 ・委託業者との連絡調整 ・関係部署との連絡調整	年6回
臨床検査適正化委員会	・検体検査精度管理及び適正化に関して審議し、体制整備を目的として設置	年2回
法人研修委員会	・新人研修、現任者講習などの職員の教育計画の立案 ・接遇教育の企画、検討	年6回

委員会・会議名	主たる内容	開催数
リハビリテーション委員会	・病院全体のリハビリテーション計画 ・各病棟におけるリハビリ計画の情報共有	月1回
福利・厚生委員会	・職員の福利と厚生に関する事項を審議、実施について検討する	年4回
未収金対策委員会	・未収金対応状況について関係部署と情報の共有 ・小遣い金の未収金や未払い金への対応 ・顧問弁護士との相談 ・対応方針の確認	月1回
機能評価プロジェクトチーム (業務改善委員会)	・病院機能評価次回受審への対応検討 ・機能評価の継続体制に関する事業の検討、立案 ・業務改善	月1回
措置入院適正化委員会	・措置入院患者の処遇の妥当性 ・措置入院患者の把握 ・措置解除、退院についての承認	必要時

【地域啓発・地域交流】

- ①ちかつアートフェスタ（菜の花）
～イオンタウン茨木太田にて



- ②ダムパークいばきたフェスティバル（菜の花）
～「ダムパークいばきた」にて



- ③三島交流卓球大会（菜の花、オンワーク）
～M-CAN（三島コミュニティ・アクション・ネットワーク）と共催



- ④おにも見にクルアート展 2023（菜の花、オンワーク）



- ⑤三島ふるさとまつり（茨木病院、菜の花、オンワーク）



【社会復帰支援センター架け橋】～2023 年 10 月開所
就労支援センターオンワーク、訪問看護ステーションそよかぜ



【夏祭り】

～久しぶりの夏祭り。雨予報で室内開催



【クロマチックハーモニカ コンサート】



【病棟クリスマス会】

～今年もサンタがプレゼントを持って参上



【書初め展】

～個性あふれる書初め

今年は表彰式もありました





医療法人 清風会 年報

2024年 5月 発行

編集 広報委員会